

令和4年度（2022年） 幼児教育科  
教育課程シラバス

愛国学園保育専門学校

(別表1) 幼児教育科 教育課程

系列	科目	単位数	授業形態	開設時間数	保育士		告示による 教科目	幼稚園教諭			
					単位	時間		単位	時間		
教養科目	日本国憲法	○ 2	講義	30	2	30	-	2	30		
	体育講義	○ 1	講義	15	1	15	-	1	15		
	体育実技	1	実技	30	1	30	-	1	30		
	情報機器の操作	2	演習	60	2	60	-	2	60		
	英語コミュニケーション	○ 2	演習	60	2	60	-	2	60		
	子どもと自然	○ 2	講義	30	2	30	-	2	30		
	合計	10		225	10	225		10	225		
専門科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	子どもと健康	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと人間関係	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと環境	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと言葉	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと表現	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと音楽A	○ 2	演習	60	-	-	-	2	60	
		子どもと音楽B	1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと表現A	1	演習	30	-	-	-	1	30	
		子どもと表現B	1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容総論	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(健康)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(人間関係)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(環境)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
		保育内容(言葉)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30	
	保育内容(表現)の指導法	○ 1	演習	30	-	-	-	1	30		
	教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
		保育・教職論	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
		子ども社会学	2	講義	30	-	-	-	2	30	
		教育・保育の心理学	2	講義	30	-	-	-	2	30	
		特別支援教育概論	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
		教育課程論	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	幼児教育方法論	2	講義	30	-	-	-	2	30	
		幼児理解の理論及び方法	○ 2	講義	30	-	-	-	2	30	
		教育相談	2	演習	60	-	-	-	2	60	
	教育実践に関する科目	教育実習事前事後指導	1	演習	30	-	-	-	1	30	
		教育実習	4	実習	180	-	-	-	4	180	
		保育・教職実践演習	2	演習	60	-	-	-	2	60	
	計	41		1050	-	-	-	41	1050		
	専門科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30
			*教育原理	○ 2	講義	30	2	30	必修	-	-
			子ども家庭福祉	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30
			社会福祉	2	講義	30	2	30	必修	2	30
			子ども家庭支援論	2	講義	30	2	30	必修	2	30
			社会的養護Ⅰ	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30
			*保育・教職論	○ 2	講義	30	2	30	必修	-	-
			*子ども社会学	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-
			*特別支援教育概論	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-
			*教育・保育の心理学	2	講義	30	2	30	必修	-	-
		保育の対象の理解に関する科目	子ども家庭支援の心理学	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30
			子どもの理解と援助	1	演習	30	1	30	必修	1	30
			子どもの保健	2	講義	30	2	30	必修	2	30
子どもの食と栄養			○ 2	演習	60	2	60	必修	2	60	
*幼児理解の理論及び方法			○ 2	講義	30	2	30	選択必修	-	-	
*教育相談			2	演習	60	2	60	選択必修	-	-	
保育の計画と評価			2	講義	30	2	30	必修	2	30	
保育の内容・方法に関する科目		*保育内容総論	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		保育内容領域(健康)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育内容領域(人間関係)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育内容領域(環境)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育内容領域(言葉)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		保育内容領域(表現)	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		*保育内容(健康)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		*保育内容(人間関係)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		*保育内容(環境)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		*保育内容(言葉)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		*保育内容(表現)の指導法	○ 1	演習	30	1	30	必修	-	-	
		乳児保育Ⅰ	○ 2	講義	30	2	30	必修	2	30	
		乳児保育Ⅱ	○ 1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		子どもの健康と安全	1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		障害児保育	○ 2	演習	60	2	60	必修	2	60	
		社会的養護Ⅱ	1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		子育て支援	1	演習	30	1	30	必修	1	30	
		*子どもと健康	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-	
		*子どもと人間関係	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-	
		*子どもと環境	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-	
		*子どもと言葉	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-	
		*子どもと表現	○ 1	演習	30	1	30	選択必修	-	-	
		*子どもと音楽A	○ 2	演習	60	2	60	選択必修	-	-	
		*子どもと音楽B	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-	
	*子どもと表現A	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
	*子どもと表現B	1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
	*教育課程論	○ 2	講義	30	2	30	選択必修	-	-		
	*幼児教育方法論	2	講義	30	2	30	選択必修	-	-		
	保育実習	保育実習Ⅰ	4	実習	180	4	180	必修	-	-	
		保育実習指導Ⅰ	○ 2	演習	60	2	60	必修	-	-	
保育実習Ⅱ		2	実習	90	2	90	選択必修	-	-		
保育実習指導Ⅱ		1	演習	30	1	30	選択必修	-	-		
総合演習	2	演習	60	2	60	必修	-	-			
計	41		1050	77	1890		32	690			
合計	82		2100	77	1890		73	1740			
総合計	92		2325	87	2115		83	1965			

\*の付いた科目は保育士、幼稚園教諭の共通科目(計は純計)

○印は1年  
無印は2年

\*児童福祉法施行規則第6条の2による告示に基づく必修科目・選択必修科目

実務経験のある教員等による授業科目の授業内容 令和4年度

担当教員名	授業科目名	単位数	授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか）
有川 博	日本国憲法	2	憲法上の機関である会計検査院で、国の財政の検査に従事した経験を踏まえ、憲法は何のために制定されるのか、憲法は誰のためのものかなどについての講義を行う。
皆川 まり	子どもの保健	2	小児科医としての臨床経験と小児保健の研究者としての成果を活かした講義を行う。
新海 智子	乳児保育 I	2	長年にわたって公立の保育園で保育に従事した経験を通し、乳児保育についての科目である乳児保育 1・II について体験的な講義を展開する。
	乳児保育 II	1	
早川 貴子	教育・保育の心理学	2	保健センター等における発達相談、発達心理の実務経験を踏まえ、子どもの心身の発達心理、保育と相談援助等について講義を行う。
	子どもの理解と援助	1	
矢野 明宏	社会福祉	2	社会福祉法人の生活指導員・介護支援専門員として社会福祉の現場の実務経験を踏まえ、社会福祉、社会的養護について講義を行う。
	社会的養護 I・II	4	

## 目 次

教育課程（1・2年生）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

実務経験のある教員による授業科目一覧：令和4年度・・・・・・・・ 2

### ○1年生

#### 1. 教養科目

日本国憲法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	有川 博・・・・・・・・	3
体育講義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	森川 みゆき・・・・	4
体育実技・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	森川 みゆき・・・・	5
英語コミュニケーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	甘糟 節子・・・・	6
子どもと自然・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	吉岡 景昭・・・・	8

#### 2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

子どもと人間関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	五十嵐 淳子・・・・	9
子どもと環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	石井 久美子・・・・	10
子どもと言葉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	小林 恵・・・・	11
子どもと表現・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	森川 みゆき・・・・	12
子どもと音楽A・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	山浦、洞庭、山崎、加藤・・・・	13
保育内容総論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	五十嵐 淳子・・・・	15
保育内容（人間関係）の指導法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	五十嵐 淳子・・・・	16
保育内容（言葉）の指導法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	小林 恵・・・・	17

#### 3. 教育の基礎的理解に関する科目

教育原理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	森 和宏・・・・	18
保育・教職論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	小林 恵・船田 鈴子・・・・	19
教育課程論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	田口 賢太郎・・・・	20

#### 4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

幼児理解の理論及び方法・・・・・・・・・・・・・・・・石井 久美子・・・21

#### 5. 保育の本質・目的に関する科目

保育原理・・・・・・・・・・・・・・・・新海 智子・・・22

子ども家庭福祉・・・・・・・・・・・・・・・・石山 直樹・・・23

社会的養護Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・矢野 明宏・・・24

#### 6. 保育の対象の理解に関する科目

子ども家庭支援の心理学・・・・・・・・・・・・・・・・早川 貴子・・・25

子どもの食と栄養・・・・・・・・・・・・・・・・扶川 利枝・・・26

#### 7. 保育の内容・方法に関する科目

保育の計画と評価・・・・・・・・・・・・・・・・田口 賢太郎・・・28

保育内容領域（健康）・・・・・・・・・・・・・・・・丸山 東人・・・29

保育内容領域（人間関係）・・・・・・・・・・・・森川 みゆき・・・30

保育内容領域（環境）・・・・・・・・・・・・・・・・石井 久美子・・・31

保育内容領域（言葉）・・・・・・・・・・・・新海 智子・・・32

保育内容領域（表現）・・・・・・・・・・・・森川 みゆき・・・33

乳児保育Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・新海 智子・・・34

乳児保育Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・新海 智子・・・35

子どもの健康と安全・・・・・・・・・・・・新海 智子・・・36

障害児保育・・・・・・・・・・・・・・・・末広 杏里・・・37

#### 8. 教育実践に関する科目

教育実習・・・・・・・・・・・・・・・・船田 鈴子・森川 みゆき・・・39

#### 9. 保育実習

保育実習指導Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・石井 久美子・・・42

## ○ 2 年生

### 1. 教養科目

情報機器の操作・・・・・・・・・・・・・・・・市村 裕・・・・・・46

### 2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

子どもと健康・・・・・・・・・・・・・・・・丸山 東人・・・・・・48

子どもと音楽B・・・・・・・・・・・・・・・・山浦、洞庭、山崎、加藤・・・・・・49

子どもと表現A・・・・・・・・・・・・・・・・山浦 勝雄・・・・・・50

子どもと表現B・・・・・・・・・・・・・・・・堀内 有子・・・・・・51

保育内容（健康）の指導法・・・・・・・・丸山 東人・・・・・・52

保育内容（環境）の指導法・・・・・・・・石井 久美子・・・・・・53

保育内容（表現）の指導法・・・・・・・・森川 みゆき・・・・・・55

### 3. 教育の基礎的理解に関する科目

子ども社会学・・・・・・・・・・・・・・・・五十嵐 淳子・・・・・・56

教育・保育の心理学・・・・・・・・・・・・・・・・早川 貴子・・・・・・57

特別支援教育概論・・・・・・・・・・・・・・・・五十嵐 淳子・・・・・・58

### 4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

幼児教育方法論・・・・・・・・・・・・・・・・森 和宏・・・・・・59

教育相談・・・・・・・・・・・・・・・・高田 伸枝・・・・・・60

### 5. 教育実践に関する科目

教育実習事前事後指導・・・・・・・・船田 鈴子・森川 みゆき・・・・・・62

教育実習・・・・・・・・・・・・・・・・船田 鈴子・森川 みゆき・・・・・・63

保育・教職実践演習・・・・・・・・・・・・・・・・船田 鈴子・・・・・・66

### 6. 保育の本質・目的に関する科目

社会福祉・・・・・・・・・・・・・・・・矢野 明宏・・・・・・68

子ども家庭支援論・・・・・・・・・・・・・・・・新海 智子・・・・・・69

## 7. 保育の対象の理解に関する科目

子どもの理解と援助	早川 貴子	70
子どもの保健	皆川 まり	71

## 8. 保育の内容・方法に関する科目

社会的養護Ⅱ	矢野 明宏	72
子育て支援	石井 久美子	73

## 9. 保育実習

保育実習Ⅰ	石井 久美子	74
保育実習Ⅱ	石井 久美子	76
保育実習指導Ⅱ	石井 久美子	77

1 年生





## 1. 教養科目

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：有川 博 授業形態：単独 講義
科 目	教養科目-日本国憲法		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 立憲主義・憲法の基本原則についての理解を深める。 1) 立憲主義について理解を深める。 2) 国民主義についての理解を深める 3) 平和主義についての理解を深める (2) 基本的人権についての理解を深める。 1) 法の下での平等についての理解を深める 2) 社会権についての理解を深める 3) 自由権についての理解を深める (3) 三権分立・統治機構の役割についての理解を深める。 1) 国会・内閣・裁判所についての理解を深める 2) 財政・納税・地方自治についての理解を深める。		
授業の概要	国民の基本的人権の話を中心に据えながら、日本国憲法全般について、国内や海外の最新のニュースや裁判例、欧米の歴史などを織りまぜて解説。講義を通して、憲法は何のために制定されるか（立憲主義）、憲法は誰のためのものか（国民主権）現代社会ではなぜ格差が拡大するのか（資本主義と競争原理）、憲法は格差社会を生きるためにどのような解決策を講じようとしているか（基本的人権の保障・社会権）などについての理解を深め、社会を見つめる力を養う。		
授業計画			
第 1 回：はじめに——なぜ格差は生じるか、格差社会を生きるために 第 2 回：「国民主権」の意味、女性が天皇のなるために 第 3 回：憲法第 9 条と「平和主義」、安全保障関連法と「立憲主義」 第 4 回：「基本的人権」の保護、人権と人権の衝突 第 5 回：「法の下での平等」と 18 歳選挙権、憲法から考えるいじめ問題 第 6 回：君が代を歌う自由・歌わない自由、女性の再婚禁止期間・夫婦別姓と最高裁 第 7 回：表現の自由と報道・出版の自由、音楽・出版と著作権法 第 8 回：憲法と刑法・刑事訴訟法、罪と罰と罪刑法定主義 第 9 回：自白と証拠能力、推定無罪 第 10 回：生活保護費の支給停止と生存権、環境権と地球温暖化問題 第 11 回：国会と法律、労働権と労働者派遣法 第 12 回：議院内閣制と衆議院の解散、情報公開制度と公文書管理法 第 13 回：司法権の独立、裁判員制度と検察審査会 第 14 回：財政と課税法律主義、地方自治と環境条例、ふるさと納税と裁判 第 15 回：おわりに——憲法は誰のもの 定期試験			
テキスト	石本伸晃著「世の中がわかる憲法ドリル」平丹社（平凡社新書）		
参考書 参考資料等	随時プリントを配布します。		
学生に対する評価	受講姿勢 50%、定期試験 50%（受講姿勢の評価には、練習問題に対する取組み・発表等についての評価を含む。）		

授業科目名：体育講義	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：森川 みゆき 授業形態：単独 講義
科 目	教養科目-体育		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>自らの心身の健康を保持・増進するための過ごし方を考え、実践できるようにする。</p> <p>(1)健康に関する正しい知識を習得している。</p> <p>(2)心身の健康を保つための実践力を身につけている</p> <p>(3)周囲の人々の健康に配慮したアドバイスができる</p>		
授業の概要	健康や運動に関するさまざまな情報の中から正しい知識を身につけ、運動・栄養・休養のバランスを保ち、心身ともに健康に社会生活を送るために必要な事柄について考えていく。		
授業計画			
<p>第1回：体育・スポーツとは何か</p> <p>第2回：健康の定義、健康の考え方</p> <p>第3回：身体の発育発達</p> <p>第4回：加齢と成人病</p> <p>第5回：運動の生理 (1) 呼吸・循環機能</p> <p>第6回：運動の生理 (2) 骨格筋・神経機能</p> <p>第7回：体力の発達とトレーニング</p> <p>第8回：生活と健康 (1) 健康な生活</p> <p>第9回：生活と健康 (2) 精神の健康</p> <p>第10回：生活と健康 (3) 食生活と健康</p> <p>第11回：生活と健康 (4) 嗜好品</p> <p>第12回：生活と健康 (5) 睡眠と休息</p> <p>第13回：生活と健康 (6) 女性の健康</p> <p>第14回：救急法 (1) 急病とけがの手当て</p> <p>第15回：救急法 (2) 乳幼児の事故の予防とけがや病気の手当て</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	幼稚園教育要領 保育所保育指針		
参考書 参考資料等	適宜配布する		
学生に対する評価	定期試験 (60%)、レポート課題 (20%)、受講態度 (20%) から総合的に評価する。		

授業科目名：体育実技	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：森川 みゆき 授業形態：単独 実技
科 目	教養科目-体育		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>運動を楽しむための基礎的な技能を身につける。</p> <p>(1) 基本の運動がスムーズに行える  (2) 基本の動きをアレンジして発展的に運動を行える  (3) 子どもの運動遊びに関する知識や技能を習得している  (4) 子どもと運動遊びを楽しめる多様な動きや表現力を習得している</p>		
授業の概要	<p>運動を楽しみ、積極的に他者と関わりながら自らの体力を保持・増進させることを目指す。創造的に体を動かす経験を通して、将来的には保育者として子どもたちと運動遊びを楽しめるよう多様な動き、表現、基礎体力を身につける。</p>		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション  第2回：基本の運動とその応用 (1) 歩こう走ろう  第3回：基本の運動とその応用 (2) 跳ぼう転がろう  第4回：基本の運動とその応用 (3) 伝承遊び  第5回：遊具を使った運動 (1) なわ  第6回：遊具を使った運動 (2) ボール  第7回：リズムに合わせた運動 (1) グループ活動 (大枠の確認)  第8回：リズムに合わせた運動 (2) グループ活動 (細部の確認)  第9回：リズムに合わせた運動 (3) グループ発表  第10回：グループ発表振り返り 望ましい指導とは  第11回：遊具を使った運動 (3) バルーンの基本  第12回：遊具を使った運動 (4) バルーンを用いたグループ発表  第13回：創作活動 (1) 発表会準備 (大枠の確認)  第14回：創作活動 (2) 発表会準備 (細部の確認：作り込み)  第15回：創作活動 (3) 発表会準備 (細部の確認：動きこみ)  グループ作品発表会 (まとめ)</p>			
テキスト	使用しない		
参考書 参考資料等	適宜配布する		
学生に対する評価	受講態度 (50%)、レポート課題 (20%)、定期試験 (30%) から総合的に評価する。		

授業科目名： 英語コミュニケーション	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員：甘糟 節子 授業形態：単独 演習
科 目	教養科目-英語コミュニケーション		
授業の到達目標 及びテーマ	保育士、幼稚園教諭として必要な英語の習得。 外国文化、多様性を重んじる姿勢の育成。 外国の言葉のみならず、様々な方面の興味を引き出す。		
授業の概要	外国人の子どもの保育に必要な英語の習得。 文化の違いの理解を深めるための知識の習得。 保育の現場での児童英語活動に必要な英語習得。 全体目標：英語に親しみを持ち、異文化に興味を持った保育士の養成		
授業計画			
第1回：オリエンテーション、Ice Breaker、自己紹介 第2回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第3回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第4回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第5回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第6回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第7回：名画鑑賞（The Sound of Music） 第8回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第9回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第10回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第11回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第12回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第13回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺 第14回：名画鑑賞（Mary Poppins） 第15回：まとめ			

授業計画

第 16 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 17 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 18 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 19 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 20 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 21 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 22 回：名画鑑賞（Home Alone）  
 第 23 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 24 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 25 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 26 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 27 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 28 回：児童英語レッスン、保育の英会話、教室英語、英語の諺  
 第 29 回：名画鑑賞（Charlotte's Web）  
 第 30 回：まとめ  
 定期試験

テキスト	保育の英会話（萌文書林） 英語が苦手でもできる！子どもと一緒に楽しむ英語（大学図書出版）
参考書 参考資料等	児童英語教育を学ぶ人のために（世界思想社） 保育英語検定テキスト（本の泉社）
学生に対する評価	受講態度（50%）、定期試験（50%）

授業科目名： 子どもと自然	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：吉岡 景昭 授業形態：単独 講義
科 目	教養科目-子どもと自然		
授業の到達目標 及びテーマ			
授業の概要	教科書を参照しながら授業を進め、適宜、参考資料（コピー）を配布し、参考文献を回覧する。 この授業は子どもたちが身の回りの自然に関心を持ち、そして、自然に親しみ、同時に畏怖の念を持つことによって健やかで情緒豊かな人へと育ち上がっていくことの手助けができるようになることを目的とする。		
授業計画			
<p>第1回：第1章 自然について 自然とはどのようなものなのか、自然の要素、自然の恵みと怖さについて</p> <p>第2回：第2章 天文・地象・気象 1. 太陽と月と地球との関係</p> <p>第3回 2. 地球の内部で起きていること</p> <p>第4回 3. 地球の気象</p> <p>第5回 4. 太陽系 5. 宇宙について</p> <p>第6回：第3章 生物について 1. 生物とは 1) 生物の特質</p> <p>第7回：1. 2) 細胞について 2) 種について</p> <p>第8回：2. 生物の分類</p> <p>第9回：3. ウィルスについて 4. 生物の多様性</p> <p>第10回： 1) 体の構造</p> <p>第11回：4. 2) 生活空間と生き方</p> <p>第12回：5. 生物同士の繋がり 1) 種間の関係</p> <p>第13回：5. 2) 生物群集に見られる構造</p> <p>第14回：第4章 生態系について</p> <p>第15回： 授業の総ざらい</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	ニューステージ 新生物図表（浜島書店）ニューステージ 新地学図表（浜島書店）		
参考書・参考資料等	適宜（新聞の記事を含む）		
学生に対する評価	レポート（50%）、定期試験（50%）		

## 2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

授業科目名： 子どもと人間関係	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：五十嵐 淳子 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人との関わりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達特性を踏まえた、人との関わりを育てる保育者の役割と援助について習得する。一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、関わっていくことはどういくことを捉え、人と関わる力を養う「人間関係」の領域について、理解し保育実践力を養うことを目指す。		
授業の概要	子ども達の「人と関わる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め乳幼児期の人間関係の発達特性を踏まえた保育実践のあり方を指導する。幼児の「人と関わる力」がどのように育まれていくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶を目指す。		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション～領域「人間関係」</p> <p>第2回：領域「人間関係」のねらいと内容</p> <p>第3回：3歳未満児の人と関わる力の育ち</p> <p>第4回：3歳以上児の人と関わる力の育ち</p> <p>第5回：子どもの言葉と人間関係</p> <p>第6回：子どもの遊びと人間関係（映像使用）</p> <p>第7回：人との関わりを育てる支援のあり方</p> <p>第8回：子どもの人間関係を育てる支援のあり方</p> <p>第9回：子どもと人間関係の広がり（園生活や地域へ）</p> <p>第10回：乳幼児期の自立心や協同性の育ち</p> <p>第11回：幼児期に育みたい人と関わる力</p> <p>第12回：人と関わる力の育ちと環境との関係性～事例を通して考える～</p> <p>第13回：道徳性と規範意識の芽生え</p> <p>第14回：保育者と保護者の人間関係</p> <p>第15回：子どもの人間関係をめぐる現代的課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	五十嵐淳子編著『国際関係学びグローバル社会の子どもの未来を見据えて』 大学図書出版 2021年3月発行 ISBN978-4-909655-49-3		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40%）、提出課題（10%）、個人発表（40%）、受講態度（10%）		



授業科目名： 子どもと環境	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：石井 久美子 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>乳幼児を取り巻く様々な環境の重要性について知り、乳幼児の発達に及ぼす環境や課題について知識や理解を深める。</p> <p>乳幼児期の終わりまでに育みたい姿を実現するために必要な、望ましい環境構成のあり方や指導に必要な方法について理解する。</p> <p>環境とのかかわりについて乳幼児の特性を理解し、体験させたい内容に応じた教材を活用し保育の構想に役立てることができること、また、乳幼児の生活と関連のある事象に興味や関心を持ち、具体的に引き上げ説明できるようになる力を身につける。</p>		
授業の概要	<p>乳幼児期は環境を通して行う保育が重要であることを踏まえ、領域「環境」のねらいや内容について学ぶ。また、乳幼児が周囲の様々な「環境」とどのようにかかわり発達していくのかについて事例や映像等を通して理解を深め、乳幼児期を取り巻く身近な環境とのかかわり方を考えていく。</p>		
授業計画			
<p>第1回：授業ガイダンス、子どもを取り巻く環境とは</p> <p>第2回：現代社会における環境の現状（映像使用）</p> <p>第3回：領域「環境」とは</p> <p>第4回：環境にかかわる力を育てる</p> <p>第5回：子どもと人的環境とのかかわり</p> <p>第6回：子どもと物的環境とのかかわり</p> <p>第7回：子どもと自然環境とのかかわり</p> <p>第8回：子どもと生活（文字や形、数とのかかわり）</p> <p>第9回：子どもと生活（季節や法則とのかかわり）</p> <p>第10回：子どもと生活（行事や地域とのかかわり）</p> <p>第11回：園での生活と環境（保育室・園庭・園外保育）</p> <p>第12回：子どもにとっての安全な環境づくり</p> <p>第13回：環境としての保育者の役割</p> <p>第14回：主体的にかかわるための環境づくり</p> <p>第15回：まとめ：環境を通して行う保育とは</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	保育実践を生かす保育内容「環境」（保育出版社）		
参考書 参考資料等	<p>文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）</p> <p>厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成29年度告示）</p>		
学生に対する評価	試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

授業科目名： 子どもと言葉	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：小林 恵 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「言葉」のねらい及び内容と子どもの言葉を育てる保育者の役割や環境について理解する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、言葉の感覚を豊かにする保育者の役割や援助の仕方を身につける。領域「言葉」の特性に応じた現代の課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる力を養う。言葉を育てる想像力を豊かにする児童文化財の意義や内容について理解する。		
授業の概要	領域「言葉」について構造的に捉えた上で、乳幼児期の言葉の獲得課程や言葉の意義と機能について理解し、保育者としてどのように関わっていけばよいのかを事例及び映像等を通して学ぶ。豊かな感覚や言葉を育むために必要な基礎的知識を身につけることをめざしていく。		
授業計画			
第 1 回：言葉とは何か 第 2 回：領域「言葉」の内容理解 第 3 回：乳幼児期の言葉の教育 第 4 回：乳幼児期における言葉の発達①0 歳～2 歳 第 5 回：乳幼児期における言葉の発達②3 歳～6 歳 第 6 回：生活体験と言葉 第 7 回：言葉と遊び 第 8 回：感動体験と言葉 第 9 回：言葉の発達を促す児童文化財（言葉の発達を促す教材の応用） 第 10 回：文字との出会い 第 11 回：子どもの育ちを支える保育者の言葉（映像を使用） 第 12 回：言葉の関わりに配慮を要する子ども（映像を使用） 第 13 回：保幼小の連携と言葉 第 14 回：幼児期の言葉の課題 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと表現	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容について全体構造を理解する。領域「表現」に関わる子どもが自分の思いや意見をもって主体的に取り組むことができる表現活動について学び理解する。子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。表現活動における知識や技法を習得し、より、豊かな表現活動につなげていくことができる。		
授業の概要	領域「表現」に示される子どもの豊かな感性や表現を育むために、保育者がどのように関わっていくのか実践例や映像等を通して具体的に学習する。子どもが生活の中で様々な表現方法を育んでいくための知識や援助のあり方を身につける。		
授業計画			
第1回：保育における領域「表現」とは 第2回：表現の発達 第3回：表現を育むということ（身体による表現） 第4回：表現を引き出す援助（身体による表現） 第5回：表現を育むということ（音楽による表現） 第6回：表現を引き出す援助（音楽による表現） 第7回：表現を育むということ（造形による表現） 第8回：表現を引き出す援助（造形による表現） 第9回：表現力を豊かにするワーク（身体による表現） 第10回：表現力を豊かにするワーク（音楽による表現） 第11回：表現力を豊かにするワーク（造形による表現） 第12回：表現力を豊かにするワーク（総合的な表現） 第13回：表現を育む援助指導（指導計画案の基本） 第14回：表現を育む援助指導（指導計画案の作成） 第15回：領域「表現」をとりまく問題 定期試験			
テキスト	保育内容 要領 表現（わかば社）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）、適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題提出（30%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもと音楽A	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員： 山浦 勝雄・洞庭 容子 加藤 瑞恵・山崎 未貴 担当形態：クラス分け 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に示された狙い及び内容を踏まえ、保育の現場において役立つピアノ実技と音楽理論、指導法を習得する。童謡の引き歌いを中心に音楽に自ら親しみ楽しさを味わうことができる。子どもの発達段階において音楽表現の楽しさを伝えられるような実践力を身につける。		
授業の概要	領域「表現」に関わる育みたい資質能力を理解し、示された「表現」の背景となる専門領域と関連させて音楽実技の基礎的な知識や指導法を身につける。子ども一人一人の発達に即した、保育における音楽表現の楽しさが伝わるようなピアノ曲や歌唱曲をグループで話し合ったり、実習も視野に入れたりした実践的な学びが実現できるようにする。		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション・・・領域「表現」の狙いと内容を理解し、音楽表現との関連性について知る。          課題曲と授業形態について説明</p> <p>第2回：かたつむり（季節の歌を弾いたり歌ったりして楽しむことができるように練習する。）</p> <p>第3回：大きなくりの木の下で（身体の諸感覚を通して表現の喜びを味わえるように練習する。）</p> <p>第4回：むすんでひらいて（言葉の意味を理解しピアノや歌に合わせて手遊びができるような力を養う。）</p> <p>第5回：こいのぼり（行事の歌を通し、情景や心情を表現する楽しさを味わえるような弾き歌いの力を身につける。）</p> <p>第6回：おかえりのうた（園生活を想定して歌いながらピアノを弾く。）</p> <p>第7回：手をたたきましょう（様々な場面で使える歌と演奏法を学び、表現活動を楽しめるように練習する。）</p> <p>第8回：うみ（季節の歌を情景を想定しながら歌うことで子ども自身の表現力を養えるように弾く。）</p> <p>第9回：きらきら星（英語の歌詞でも歌うことを楽しめるように弾き歌いする。）</p> <p>第10回：シャボン玉（情景が伝わるようなメロディを楽しみながら演奏技法を高める。）</p> <p>第11回：たなばたさま（行事の歌を用いて言葉の意味や情景が伝わるように弾き歌いをする。）</p> <p>第12回：山の音楽家（簡易な楽器を使って乳幼児の発達に即した分担奏を考え練習する。）</p> <p>第13回：森のくまさん（輪唱の仕組みについて知りリズムカルな言葉遊びを楽しめるように弾く練習をする。）</p> <p>第14回：おべんとう（園生活に想定して歌いながらピアノを弾く。）</p> <p>第15回：まとめ（事前に提示された課題曲の確認と練習。前期を振り返る。）</p> <p>実技試験</p>			

授業計画

- 第16回：おはようのうた（園生活の中での生活の歌を歌いながら弾き、子どもが楽しく歌えるような力を身につける。）
- 第17回：はみがきしましょう（この歌を通して「歯磨き」に興味や関心が持てるように演奏する。）
- 第18回：さようならのうた（園生活の中での生活の歌を歌いながら弾き、子どもが楽しく歌えるような力を身につける。）
- 第19回：アイアイ（輪唱の仕組みについてしりリズムカルな言葉遊びを楽しむことができるように弾く。）
- 第20回：おもちゃのチャチャチャ（言葉の表現を楽しみながら歌える奏法を身につける。）
- 第21回：おんまはみんな（リズムカルな歌を楽しく弾くことによって子どもが豊かな表現方法を身につけることができるようにする。）
- 第22回：おばけなんてないさ（子どもが興味を持つ歌の特性を考えながらイメージ豊かに弾いたり歌ったりする。）
- 第23回：すうじのうた（数量に関心を持てる方法や技能を身につけリズムカルに弾く。）
- 第24回：夕やけこやけ（情景や心情が浮かびそれを表現できる演奏方法を身につける。）
- 第25回：やきいもグーチーパー（簡単な歌遊びを通してピアノに合わせ身体表現ができるように弾く。）
- 第26回：ドレミの歌（表現することの楽しさを実感しながらより豊かな表現力が発揮できるように練習する。）
- 第27回：ジングルベル（曲調を揃えながら歌唱スキルの発達を促せるように弾く。）
- 第28回：お正月（行事の歌に親しみ、表現豊かに歌えるように演奏する。）
- 第29回：思い出のアルバム（歌詞からイメージできる情景を思い浮かべながら豊かな感性を育むことができるような演奏法を身につける。）
- 第30回：まとめと復習
- 実技試験

テキスト	「幼児のための音楽教育」 教育芸術社
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）
学生に対する評価	実技試験（60%）、授業態度（30%）、小テスト（10%）から総合的に評価する

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：五十嵐 淳子 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	①保育の基本となる保育所保育指針、幼稚園教育要領に基づき、保育内容を理解する。②保育内容の歴史的変遷について学ぶ。③保育内容の展開として、子どもの発達過程を踏まえ、観察や記録の視点を学ぶ。④養護と保育の一体化について保育実践につなげて理解する。⑤保育の多様な展開について学び、今日的課題を把握する。		
授業の概要	保育内容総論は、各論としてとらえられる保育内容を総合的に把握して理解するものである。子どもの育ちを支える保育者として求められる知識と保育技術、その他保育内容に関わることを総合的に学び、身につけることを目標とする。		
授業計画			
<p>第 1 回：保育の基本と保育内容（保育内容とは、保育の構造・構成、保育内容の総合的把握）</p> <p>第 2 回：保育の特質（幼稚園教育要領及び保育所保育指針における保育内容の考え方、幼稚園教育の特質—幼稚園教育要領、保育所保育指針の特質—保育所保育指針）</p> <p>第 3 回：保育内容の変遷（戦前・戦後の保育内容、幼稚園創設と恩物による保育の開始、幼稚園の普及と保育内容の改編、幼稚園教育の確立 ※含む保育所）</p> <p>第 4 回：幼児の発達と生活（幼児の発達、年齢ごとの発達、幼児の生活、保育内容との関連）</p> <p>第 5 回：環境と保育内容（幼児にとっての遊び、遊びの中で学んでいること幼児理解と保育内容）</p> <p>第 6 回：遊びによる総合的な保育（遊びを通しての総合的指導、遊びを支える遊びの援助）</p> <p>第 7 回：幼児理解と保育内容（カウンセリングマインド（子どもと寄り添う）、子どもを見る目、記録することによる幼児理解）</p> <p>第 8 回：保育内容と保育の計画①（保育における計画、保育の計画の考え方、指導計画の考え方、具体的な指導計画）</p> <p>第 9 回：保育内容と保育の計画②（幼稚園における教育課程と指導計画の実際）</p> <p>第 10 回：保育内容と保育の計画③（幼稚園における教育課程と指導計画の実際）</p> <p>第 11 回：保育内容と保育の展開（幼稚園・保育所における指導の課題、保育形態（形態自在）、行事の捉え方）</p> <p>第 12 回：保育の評価と記録（評価とはなにか、保育と記録、自己表現）</p> <p>第 13 回：保育所の役割（保育者の使命と役割、保育者の人間性、受容と共感、保育者の資質の向上）</p> <p>第 14 回：保育内容における現状と課題（小学校教育との連携、幼保小や認定子ども園との関連、家庭や地域との関連）</p> <p>第 15 回：今日の保育に課題と保育内容（生活環境の変化と保育内容）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	浅見均「新版 子どもの育ちを支える 保育内容総論」大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40%）、受講態度（10%）、課題提出（10%）、個人発表（40%）		

授業科目名： 保育内容(人間関係) の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：五十嵐 淳子 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「人間関係」のねらいと保育内容を踏まえ、幼稚園教育において育みたい資質、能力について理解し、子どもの姿と指導計画に基づいた保育実践ができるようになることを目標とする。子どもの発達にふさわしい「人間関係」の育ちについて具体的な保育の構想や実践する方法を身につける。模擬保育やロールプレイなどの振り返りを通して保育を改善する力を修得する。		
授業の概要	本講義では、一人ひとりの子どもの発達を見通した保育の展開を目指し、子どもの実態や生活に即した領域「人間関係」に視点をあてた指導計画の作成に基づき、模擬保育の実際の事例をとおして保育実践ができるように理解を深める。		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 授業の進め方、保育内容指導法「人間関係」について</p> <p>第2回：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、要領「人間関係」のねらい及び内容と全体構造を理解する。</p> <p>第3回：領域「人間関係」に視点をあてた幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点を理解する。</p> <p>第4回：個と集団との育ちの関係性について</p> <p>第5回：自立心を育む援助について事例に沿って検討</p> <p>第6回：人とのかかわりを育てる保育者の援助及び留意点について事例に沿って検討</p> <p>第7回：葛藤体験を通してルールや決まりの必要性について事例に沿って検討</p> <p>第8回：模擬保育の指導案を立案する—保育場面の中で育つ人とのかかわりを育てる保育を想定した指導案を立案する。</p> <p>第9回：模擬保育の実践</p> <p>第10回：模擬保育の振り返り—具体的事例に触れ、振り返りを通して保育を改善する視点を身につけ、保育を構想する方法を理解する。</p> <p>第11回：領域「人間関係」に関連した保育場面を想定して、人との関わりの育ちを見る視点について主体的、対話的に学び、グループ毎に検討しまとめる。</p> <p>第12回：保育内容領域「人間関係」の指導法の課題について考え話し合う。</p> <p>第13回：遊具や用具を集団の中で協力し合ったり、譲り合ったりする体験を通じた遊びの理解（情報機器を使用した保育を行う）</p> <p>第14回：領域「人間関係」に視点をあて、地域との連携・交流、小学校の教科等のつながりを理解する。</p> <p>第15回：保育内容領域「人間関係」の指導法をめぐる現代的課題とまとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	著者：田中卓也編著『基礎からまなべる保育内容(人間関係)ワークブック』あいり出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40%）、提出課題（10%）、個人発表（40%）、受講態度（10%）		

授業科目名： 保育内容（言葉）の 指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：小林 恵 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、言葉の意義について捉え、乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、乳幼児の言葉の育ちを支える保育者としての意義について理解を深め保育実践力を養う。また、乳幼児の豊かな言葉が育まれる保育教材を研究し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。子どもが体験し身につけていく方法や指導上の留意点について映像資料や具体的な資料を用いて理解する。		
授業の概要	保育現場において子どもたちが様々な言語教材に親しみながら豊かな言葉やイメージが広がり育まれるよう環境のあり方や模擬保育に向けた具体的な指導方法について研究し実践力がつくようにする。子どもの発達に即した領域「言葉」のねらいや内容を踏まえた保育実践力を養うことを目指すために、具体的な事例や映像などを使用したり、グループでディスカッションしたりして保育実践ができるように理解を深めていく。		
授業計画			
第 1 回：乳幼児期の特徴・言葉の発達過程について～映像資料や事例を通して、幼児の姿について理解を深める～（グループ討議） 第 2 回：指導者として幼児の言葉環境に必要な心得や準備～具体的にどのようなことか事例を基に考える～（グループ討議） 第 3 回：幼児の文字との出会いや獲得過程について～幼児のあらゆる生活場면을想定し考える～（グループ討議） 第 4 回：幼児が文字で伝える楽しさを育む援助として、遊びを通して各文字の具体的な場面について～映像資料などを参考に確認する～（グループ討議） 第 5 回：言葉を育む環境構成と援助～けんかやトラブルの場面での保育者の役割を具体例や映像機器を通して学ぶ～（グループ討議） 第 6 回：乳幼児を対象とする絵本・紙芝居の選び方と読み方の工夫 第 7 回：絵本・紙芝居の読み聞かせの実践 第 8 回：言葉に対する感覚を豊かにする保育～しりとり、反対ことば等のさまざまな言葉遊びについての研究～（グループ討議） 第 9 回：言葉に関する感覚を豊かにする保育～しりとり、反対ことば等のさまざまな言葉遊びについての実践～（グループ討議） 第 10 回：エプロンシアター・パネルシアターの活用方法と留意点について（グループ毎に発表） 第 11 回：人形劇・ペープサート・素話の活用方法と留意点について 第 12 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊び—準備 第 13 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊び—準備 第 14 回：言葉の発達を促す児童文化財を活用した模擬保育 劇遊び—実践（発表） 第 15 回：模擬保育の振り返り（反省と課題） 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度・課題提出・表現技術（40%）から総合的に評価する。		



### 3. 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目名： 教育原理	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員：森 和宏 授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>1. 教育の基本的概念を理解するとともに、教育を成り立たせる諸要素とそれらの相互関係を理解する。</p> <p>2. 家族と社会による教育の歴史、近代教育制度の成立と展開について理解し、それらの知識にもとづいて、現代社会における教育課題を歴史的に考える力を身につける。</p> <p>3. 教育、学習、子どもに関する様々な思想を理解し、それらと多様な教育の理念や実際の教育・学校との関わりについて理解する。</p>		
授業の概要	<p>教育とは何か、教育を支える諸要素とは何かについて、基本的概念の学習を通じて検討する。一方で、このような教育の本質・原理は所与のものではない。そこで、教育の歴史と思想を学ぶことによって、教育の本質・原理についての考えを一層深める。最後に、学習をとおして得られた教育の歴史と思想に関する知識に基づいて、現代の教育を対象化し、その教育課題について原理的に考える視座の獲得をめざす。</p>		
授業計画			
<p>第1回： イントロダクション</p> <p>第2回： 教育の基礎1：教育とは何か</p> <p>第3回： 教育の基礎2：子ども・家族・社会</p> <p>第4回： 教育の基礎3：「学び」とは何か</p> <p>第5回： 教育の基礎4：教育を支える制度・組織</p> <p>第6回： 教育の歴史と思想1：古代ギリシア・古代ローマ</p> <p>第7回： 教育の歴史と思想2：西洋キリスト教思想、中世</p> <p>第8回： 教育の歴史と思想3：近代ヨーロッパの教育思想、近代学校の成立と展開</p> <p>第9回： 教育の歴史と思想4：日本における人間形成の歴史と学校の定着</p> <p>第10回： 教育の歴史と思想5：戦後日本の教育と社会</p> <p>第11回： 教育の現代的課題1：グローバル化時代の教育</p> <p>第12回： 教育の現代的課題2：インクルーシブな教育の時代へ</p> <p>第13回： 教育の現代的課題3：教育実践における教師と子ども</p> <p>第14回： 教育の現代的課題4：教育評価とエビデンス</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	使用しない。		
参考書 参考資料等	特に指定しない。授業中に適宜紹介する。		
学生に対する評価	授業参加の態度（30%）、リアクションペーパー・ワークシートの提出（70%）を定期試験に代えて、総合的に評価する。		

授業科目名： 保育・教職論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員： 小林 恵・船田 鈴子 授業形態：オムニバス 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育者の職務を理解し、乳幼児を保育する専門家としての役割の重要性に気づき、幅広い資質を身につける。また、保育者の制度的な位置づけと社会的な意義について理解し、義務と倫理について理解する。		
授業の概要	保育者としてのあるべき姿とその実際について、具体的な事例（学生の実習体験等も含む）を通し考察し、求められる保育者像とその意義や役割の理解を深める。また、現代社会が求める保育者の資質や能力、職務内容等について習得する。		
授業計画			
第1回：保育・教育とは－「保育者になる」ということ－（小林） 第2回：保育者の仕事－保育者の1日を知る－（小林） 第3回：保育という仕事の実態（1）（小林） 第4回：保育という仕事の実態（2）（小林） 第5回：保育者の役割（小林） 第6回：保育者の倫理（小林） 第7回：職務内容の理解（1）（小林） 第8回：職務内容の理解（2）（小林） 第9回：保育者の専門性－保育者に求められる能力－（船田） 第10回：保育者の専門性－保育カンファレンスの事例を通して－（船田） 第11回：保育者の専門性－保育者としての学びとキャリア形成－（船田） 第12回：地域の中の保育者の役割（船田） 第13回：学びあう保育者－チーム保育と保育者の同僚性－（船田） 第14回：保育者の協働と連携（船田） 第15回：保育者の現状と今後の課題（船田） 定期試験			
テキスト	新字体の保育双書 今に生きる保育者論 第4版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）により総合的に評価する。		

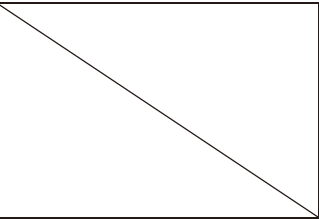
授業科目名： 教育課程論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員：田口 賢太郎 授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	教育課程の意識及び編成の方法を理解する。子どもの興味や関心、発達過程に合わせた指導計画作成のポイントや方法について理解する。		
授業の概要	教育課程についての基礎知識を知り、指導計画作成の手順やカリキュラムマネジメントについて理解する。教育課程を具体化した指導計画の立案ができることを目指す。		
授業計画			
第1回：ガイダンス～教育課程とは～ 第2回：教育課程の意義 第3回：教育要領の歴史的変遷 第4回：指導計画と保育の実際（VTR・・・はじめての幼稚園実習） 第5回：教育課程編成の基本と原理 第6回：保育計画の種類と特徴 第7回：長期（年間・月間）の指導計画（編成方法） 第8回：短期（週案・日案）の指導計画（編成方法） 第9回：子どもの発達や実態と合った指導計画 第10回：実習指導案の作成と留意点（実際に作成） 第11回：保育の記録と評価 第12回：子どもの実態と計画、教育課程との関連 第13回：保育の計画と実践と評価との関係性 第14回：カリキュラムマネジメントの意義と重要性 第15回：まとめ～保育の計画の必要性和仕組みの確認～ 定期試験			
テキスト	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、 厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）により総合的に評価する。		

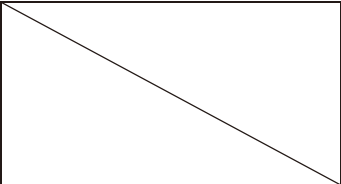
#### 4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導方法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目名： 幼児理解の理論及び方法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員：石井 久美子 授業形態：単独 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 保育者の役割、職務内容について理解する。2. 子どもや保護者に対する適切な援助方法を理解する。3. 子どもや保護者への対応を考える中、援助の普遍性について学ぶ。		
授業の概要	子どもたちや保護者への対策を、子どもたちの発達、教育理論等を踏まえ適切な理解をする。また、保育、心理などにおける援助の方策の共通理念についても考えていく。		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション この授業の意味について</p> <p>第2回：保育の基本としての援助</p> <p>第3回：幼児理解に基づいた援助のねらいと内容</p> <p>第4回：保育で求められる援助1（援助とは何か）</p> <p>第5回：保育で求められる援助2（子どもへの援助活動）</p> <p>第6回：保育で求められる援助3（保護者との連携、援助）</p> <p>第7回：発達と援助1（発達をどうとらえていくか）</p> <p>第8回：発達と援助2（集団と個への対応）</p> <p>第9回：気になる子への対応</p> <p>第10回：遊びを通じた集団の形成</p> <p>第11回：人間関係を通じた援助のあり方</p> <p>第12回：自立への展開</p> <p>第13回：援助の普遍性に関する考察</p> <p>第14回：保育の質について</p> <p>第15回：現代的課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	演習保育相談支援（萌文書林）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	定期試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

## 5. 保育の本質・目的に関する科目

授業科目名： 保育原理	/	単位数： 2 単位	担当教員：新海 智子
			授業形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の意義や保育者としての専門的内容の基盤を広い視野から学習することで、保育を総合的に捉え、保育の営みの役割を理解する。		
授業の概要	保育の専門性、保育観、子ども観、子どもの理解、保育における環境の意味など、保育現場からの視点を大切にしながら現在求められている「保育」の意味を考察していく。		
授業計画			
第 1 回：子どもとは 第 2 回：保育とは何か 第 3 回：子どもを取り巻く環境の現状 第 4 回：現代社会が求める保育 第 5 回：保育の本質と意義（1）目標 第 6 回：保育の本質と意義（2）内容 第 7 回：就学前保育制度と保育の役割 第 8 回：保育の基本 第 9 回：発達過程に応じた保育 第 10 回：保育のねらい、内容、方法 第 11 回：保育の計画と評価 第 12 回：保幼小及び家庭との連携 第 13 回：保育の思想と歴史 第 14 回：保育の現状と課題 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	最新 保育原理-わかりやすく保育の本質に迫る-（保育出版社）、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度）		
参考書 参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（20%）、レポート課題（20%）、期末試験（60%）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 子ども家庭福祉		単位数： 2単位	担当教員名：石山 直樹
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭福祉の概要と施策や子どもに対する一般的な考え方の変遷、それぞれの時代における子どもの状況や問題を例をもとに学ぶ。</li> <li>・子どもの人権について考え方と関連する法律を知り、人権擁護や児童福祉の実施機関について学ぶ。</li> </ul>		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 子ども家庭福祉の対象や内容について理解する <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 子ども家庭福祉の制度や歴史について理解している。</li> <li>2) 実際に子どもや家庭にどのような対応がなされているのかを理解している。</li> </ul> </li> <li>(2) 子どもが置かれている状況や諸問題について学び、理解する</li> <li>3) 時代や社会ごとに子どもの置かれている状況、子どもへの考え方、モラルに違いがあることを理解している。</li> <li>(3) 子ども家庭福祉に対する考えや意見を持つ <ul style="list-style-type: none"> <li>4) 1)～3)を踏まえ、どのような環境が子どもに必要であるか、どのような状態が子どもにとって幸せであるかなどについて、自分の考えを述べることができる。</li> </ul> </li> </ul>		
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の進め方、評価方法、科目の説明） 第2回：子ども家庭福祉とは何か（意義・理念） 第3回：子どもと家庭を取り巻く社会 第4回：子どもの福祉の歴史①（イギリス・アメリカ） 第5回：子どもの福祉の歴史②（ニュージーランド・日本） 第6回：4カ国の福祉を比較したディスカッション 第7回：子ども家庭福祉に関する制度と法律（児童福祉法） 第8回：子ども家庭福祉にかかわる機関と施設 第9回：少子化と子育て家庭へのサービス①（子育て支援・母子保健サービス・ひとり親家庭の福祉サービス） 第10回：少子化と子育て家庭へのサービス②（保育サービス・子ども家庭に関する各種手当） 第11回：子育て支援と子どもに関する諸問題①（地域の子育て支援サービス、外国籍の子どもへの支援） 第12回：子育て支援と子どもに関する諸問題②（虐待・DV・非行・子どもの貧困） 第13回：子育て支援と子どもに関する諸問題③（社会的養護・障害児の福祉） 第14回：地域における連携・協働とネットワーク 第15回まとめ 定期試験			
テキスト	比嘉真人監修、石山直樹・岡本眞幸・田家英二編『輝く子どもたち 子ども家庭福祉論（第2版）』株式会社 みらい、(ISBN:9784860155735)		
参考書・ 参考資料等	保育所保育指針、こども六法、新聞記事、映像資料など		
学生に対する評価	受講態度 20%、提出物 30%、試験 50%から総合的に評価する		

授業科目名： 社会的養護 I		単位数： 2 単位	担当教員名： 矢野 明宏
			担当形態： 単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ：社会的養護の意義や、児童福祉施設における養護の基本理念について理解し、施設における保育士業務や役割、および基本的な仕組みや事項について理解を深める。			
授業の概要：社会的養護について、その意義や歴史の変遷、制度や体系について理解を深めながら、保育士に求められる専門性や実践について、具体的な対応方法（生活支援や自立支援など）を学び理解する。			
授業計画 第 1 回： 社会的養護の理念と概念 第 2 回： 社会的養護の歴史の変遷 第 3 回： 子どもの人権擁護と社会的養護 第 4 回： 社会的養護の基本原則 第 5 回： 社会的養護における保育士等の倫理と責務 第 6 回： 社会的養護の制度と法体系 第 7 回： 社会的養護のしくみと実施体系 第 8 回： 社会的養護とファミリーソーシャルワーク 第 9 回： 社会的養護の対象と支援のあり方 第 10 回： 家庭養護と施設養護・専門職 第 11 回： 社会的養護に関する社会的状況 第 12 回： 施設等の運営管理の現状と課題 第 13 回： 被措置児童等の虐待防止の現状と課題 第 14 回： 社会的養護と地域福祉の現状と課題 第 15 回： 全体まとめ 定期試験（筆記）			
テキスト	著者名：公益社団法人児童育成協会監修 相澤仁 林浩康「新・基本保育シリーズ6 社会的養護 I」中央法規出版 2021 年		
参考書・参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。		
学生に対する評価	授業への参加態度（20%）・課題（またはレポート）発表（40%）・期末試験（40%）から総合的に評価する。		

## 6. 保育の対象の理解に関する科目

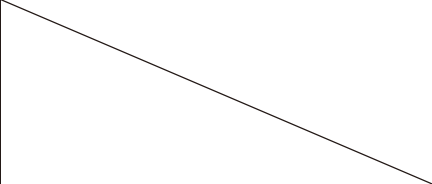
授業科目名： 子ども家庭支援の心理学		単位数： 2単位	担当教員：早川 貴子 担当形態：単独 講義
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	人の誕生日から死までの生涯発達をおさえた上で、家族・家庭との関連について講義する。また、子どもからおとなまでの取り巻く環境とのかかわり、現実の子どもやおとなの姿などの理解を深める。		
授業の概要	<p>(1) 生涯発達の観点をふまえながら子どもの心身の発達の基礎を学ぶ。 1) 子どもの心身の発達に関わる心理学の基礎を理解し、習得する。 2) 生涯発達の観点から発達の過程を理解する。 3) 保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。</p> <p>(2) 家族・家庭の意義や機能をふまえながら、親子関係・家族間等について発達的に理解し包括視点を習得する。 1) 家族・家庭の意義と機能を理解する。 2) 親子関係・家族関係を理解する。</p> <p>(3) 精神保健とその課題 1) 子どもの健康にかかる問題について理解する。 2) 特別な配慮を要する家庭について知識を得る。</p>		
授業計画			
<p>第1回：子ども家庭支援の心理学 第2回：乳幼児期の発達的特徴 第3回：乳幼児の発達的特徴 第4回：学童期の発達的特徴 第5回：思春期から青年期の発達的特徴 第6回：子どもの心と健康① 第7回：子どもの心と健康② 第8回：成人期から老年期の発達的特徴 第9回：家族システムと家族発達 第10回：親になるとはどういうことか 第11回：子育て支援の社会状況の変化 第12回：ライフワークとワーク・ライフ・バランス 第13回：多様な子育て家族とその支援 第14回：特別な配慮を必要とする家族とその支援 第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	資料を配布する		
参考書 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）、		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（20%）、試験（80%）、から総合的に評価する。		



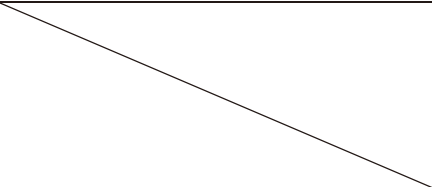
授業科目名： 子どもの食と栄養		単位数： 2単位	担当教員：扶川 利枝
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1、健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 3、食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化との関わりの中で理解する。 4、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ。 5、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。		
授業の概要	食育に重点をおき、乳幼期、幼児期、学童期、思春期の各段階に応じた食生活のあり方と問題点、および母親・保護者になる者として母性栄養も学習する。		
授業計画			
第1回：	第1章	子どもの健康と食生活の意義	
	1.1	子どもの心身の健康と食生活	1.2 子どもの食生活の現状と課題
第2回：	第2章	子どもの発育・発達と食生活	2.1 発育・発達の基本的知識
第3回：	第2章	子どもの発育・発達と食生活	2.2 子どもの消化器官・排泄機能の発達の基本的知識
第4回：	第2章	子どもの発育・発達と食生活	2.3 食べる機能の発達に関する基本的知識
第5回：	第2章	子どもの発育・発達と食生活	2.4 発育・栄養状態の評価
第6回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
		1 栄養と栄養素 2 エネルギー 3 栄養素の種類と機能 (1) たんぱく質	
第7回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
		3 栄養素の種類と機能 (2) 脂質の基礎知識	
第8回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
		3 栄養素の種類と機能 (3) 糖質（炭水化物）の基礎知識	
第9回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
		3 栄養素の種類と機能 (4) ビタミンの基礎知識	
第10回：	まとめ	小テスト（1～9まで）	
第11回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
		3 栄養素の種類と機能 (5) ミネラルの基礎知識	
第12回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
		3 栄養素の種類と機能 (6) 水 (7) フィトケミカル	
第13回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.1 栄養の基本的知識
		4 食品群ごとの栄養の特徴	
第14回：	第3章	栄養に関する基本的知識	3.2 小児の食事摂取基準 3.3 献立作成と調理の基本
第15回：	基礎調理	(実習について)	

授業計画	
第16回：	第4章 食の衛生と安全 4.1 食中毒の原因とその特徴 4.2 食品表示について 4.3 健康や栄養に関する表示の制度 4.4 食品添加物について
第17回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.1 胎児期（妊婦）
第18回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.2 乳児期
第19回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.2 乳児期（調乳、離乳食）実習
第20回：	まとめ 小テスト（11～19まで）
第21回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.3 幼児期 5.4 学童期・思春期
第22回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.3 幼児期 5.4 学童期・思春期 実習
第23回：	第5章 ライフステージ別の栄養と食生活 5.5 生涯発達と食生活
第24回：	第6章 食育の基本と内容 6.1 食育における養護と教育の一体性 6.2 食育の内容と計画および評価
第25回：	第6章 食育の基本と内容 6.3 食育のための環境 6.4 食生活指導および食を通じた保護者への支援
第26回：	第7章 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 7.1 家庭における食事と栄養 7.2 児童福祉施設における食事と栄養 7.3 災害時の栄養・食生活支援体制
第27回：	第8章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 8.1 疾病および体調不良のこどもへの対応
第28回：	第8章 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 8.2 障害のある子どもへの対応
第29回：	第9章 食物アレルギーの基本的知識 9.1 食物アレルギーのあるこどもへの対応 9.2 保育所における食物アレルギーの対応
第30回：	まとめ 定期試験
テキスト	イラスト 子どもの食と栄養（東京教学社）
参考書 参考資料等	必要に応じて資料を配布いたします。
学生に対する評価	期末試験（50%）、小テスト・提出課題（30%）、授業態度（出席状況を含む）（20%）からの総合的に評価する。（実習は、必ず出席しレポートを提出すること。）

7. 保育の内容・方法に関する科目

授業科目名： 保育の計画と評価		単位数： 2 単位	担当教員：田口 賢太郎
			授業形態：単独 講義
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育の全体計画についての基礎知識を知り、指導計画作成の手順やカリキュラムマネジメントについて理解する。全体的な計画を具体化した指導計画の立案ができることを目指す。		
授業の概要	保育の計画と評価の意義及び編成の方法を理解する。子どもの興味や関心、発達過程に合わせた指導計画作成ポイントや方法について理解する。		
授業計画			
<p>第 1 回：ガイダンス～保育の計画と評価について～</p> <p>第 2 回：全体的な計画の意義</p> <p>第 3 回：保育指針の歴史的変遷</p> <p>第 4 回：全体的な計画編成の基本と原理</p> <p>第 5 回：保育の計画の種類と特徴</p> <p>第 6 回：長期（年間・月間）の指導計画（編成方法）</p> <p>第 7 回：短期（週案・日案）の指導計画（編成方法）</p> <p>第 8 回：子どもの発達や実態と合った指導計画（編成方法）</p> <p>第 9 回：指導計画と保育の実際</p> <p>第 10 回：実習指導案の作成と留意点①</p> <p>第 11 回：実習指導案の作成と留意点②</p> <p>第 12 回：保育の記録と評価</p> <p>第 13 回：教育課程との関係性</p> <p>第 14 回：カリキュラムマネジメントの意義と重要性</p> <p>第 15 回：まとめ～保育の計画の必要性と仕組みの確認～</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、 厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（健康）	/	単位数： 1 単位	担当教員：丸山 東人
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の、改定のねらいについて理解を深める。2. 幼児教育を行う施設として共有すべき事項（育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）について、健康という視点から理解を深める。3. 領域「健康」について、そのねらいと内容の関係性、意味について理解を深める。		
授業の概要	5領域の中核である領域「健康」について、理解を深めてゆく。幼稚園教育要領と保育所保育指針を、時代背景やデータと共に理解し、実践で生かせるように教授していく。また適宜、他領域との関係、小学校以降とのカリキュラムとの連続性、地域社会との連携と協調等についても言及する。		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション この授業の意味について</p> <p>第2回：幼稚園教育要領と保育所保育指針の改定のねらい（社会背景、時代経過と共に理解しよう）</p> <p>第4回：幼児教育を行う施設として共有すべき事項1（育みたい資質・能力）</p> <p>第5回：幼児教育を行う施設として共有すべき事項2（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）</p> <p>第6回：乳児保育の中での領域「健康」</p> <p>第7回：1歳児以上3歳児未満の保育の中での領域「健康」</p> <p>第8回：3歳児以上の保育の中での領域「健康」</p> <p>第9回：小学校以降とのカリキュラムの連続性について</p> <p>第10回：地域社会との連携・協調・協働</p> <p>第11回：子どもの自己防御能力の醸成</p> <p>第12回：エビデンスに基づく食育実践</p> <p>第13回：食物アレルギーの理解（非日常時の対応も含めて）</p> <p>第14回：幼稚園教育要領と保育所保育指針をデータから理解する（事故、既往症、発達状況）</p> <p>第15回：幼稚園教育要領と保育所保育指針をデータから理解する（子どもの生活、肥満とやせ、子育て）</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	「改訂版 子どもの育ちを支える 子どもと健康」(大学図書出版)、文部科学省「幼稚園教育要領」(平成29年度告示)、厚生労働省「保育所保育指針」(平成29年度告示)、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」(平成29年度告示)		
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領解説 文部科学省（フレーベル館） 保育所保育指針解説 厚生労働省（フレーベル館）		
学生に対する評価	定期考査（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）		

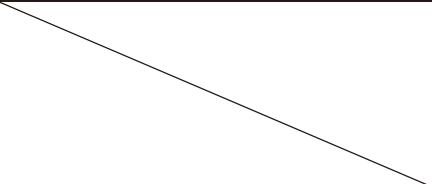
授業科目名： 保育内容領域 (人間関係)		単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			担当形態：単独 演習
科 目	保育内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添い、かかわっていくことはどういくことかを捉え、人とかかわる力を養う「人間関係」の領域を理解する。 保育内容領域「人間関係」について構造的にとらえた上で、保育内容をいかに構成・展開していくか理解を深める保育実践力を養うことを目標とする。 幼児の「人とかかわる力」がどのように育んでいくのかを理解し、情意的体験によって保育者にふさわしい人格の陶冶を目指す。		
授業の概要	人間関係の基礎を培う乳幼児期において、乳幼児が生活するそれぞれの場で人とのかかわりがどのように育っていくのか、乳幼児の発達の特徴を踏まえた、人とのかかわりを育てる保育者の役割と援助について指導する。 子ども達の「人とかかわる力」を育てるための集団づくりについて、実践例や映像等を使用しながら考えを深め、乳幼児期の人間関係の発達特性をふまえた保育実践の在り方を指導する。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション、領域「人間関係」とは 第 2 回：子どもの遊びと人間関係 第 3 回：領域「人間関係」のねらいと内容 第 4 回：乳幼児期における人間関係の発達 第 5 回：人とのかかわりを育てる保育教材 第 6 回：子どもの人間関係を育てる保育者の役割 第 7 回：子どもの言葉と人間関係 第 8 回：子どもの人間関係を育む保育実践①保育教材と子ども 第 9 回：子どもの人間関係を育む保育実践②子どもへの声かけ 第 10 回：子どもの人間関係を育む保育実践③子どもとのかかわり 第 11 回：子どもを取り巻く地域や高齢者との交流 第 12 回：保育者同士の人間関係 第 13 回：保育者と保護者の人間関係 第 14 回：保護者へのかかわり（学級便りの作成） 第 15 回：まとめ 重要事項の整理と確認 定期試験			
テキスト	著者：田中 卓也 「保育内容（人間関係）ワークブック」 あいり出版		
参考書 参考資料等	五十嵐 淳子「多文化理解・国際理解 多様性の尊重を目指して」大学図書出版 2019 年		
学生に対する評価	授業態度（10%）、保育実践の発表（40%）、提出物（10%）、定期試験（40%）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（環境）		単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>保育の基本は、環境を通して行われるものであること、またそのほか 4 つの領域と相互に関連し合っって子どもの健やかな成長発達が助長されていくことへの理解を深める。</p> <p>子ども達を取り巻く環境（主に保育所）と主体的にかかわりたくなるような望ましい環境について理解し、具体的な支援方法について学ぶ。</p>		
授業の概要	<p>環境を通して行う保育の重要性について十分な理解ができるよう事例や資料を通して学んでいく。また、子どもの生活を豊かにするための環境構成や具体的な支援方法について考察していく。</p>		
授業計画			
<p>第 1 回：授業ガイダンス／領域「環境」のねらいと内容（保育所保育指針）</p> <p>第 2 回：子どもを取り巻く保育環境</p> <p>第 3 回：保育所の生活と環境（乳児）</p> <p>第 4 回：保育所の生活と環境（1 歳以上 3 歳未満児）</p> <p>第 5 回：保育所の生活と環境（3 歳以上児）</p> <p>第 6 回：乳児期の基礎を培う保育環境</p> <p>第 7 回：保育所の子どもと環境とのかかわり（人的、物的）</p> <p>第 8 回：保育所の子どもと生活①（文字や形、数とのかかわり）</p> <p>第 9 回：保育所の子どもと生活②（季節ごとの自然とのかかわり）</p> <p>第 10 回：保育所の子どもと生活③（行事や地域とのかかわり）</p> <p>第 11 回：子どもの健康支援・安全管理と環境</p> <p>第 12 回：保育所におけるアレルギー対応と環境</p> <p>第 13 回：保育所における食育推進と環境</p> <p>第 14 回：領域「環境」を通して行う保育とは</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	保育実践に生かす保育内容「環境」（保育出版社）		
参考書 参考資料等	<p>文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）</p> <p>厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示）</p>		
学生に対する評価	試験（60%）、課題提出（20%）、受講態度（20%）の総合評価		

授業科目名： 保育内容領域（言葉）		単位数： 1 単位	担当教員：新海 智子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の言葉の獲得とその過程、領域「言葉」についての考え方を理解し、乳幼児期に言葉が豊かに育つには保育者としてどのように援助すればよいか基本的な知識を深め、保育者の役割を理解する。		
授業の概要	講義と映像等を使用し、乳幼児の言葉の特徴と言葉に係る幅広い視点からの学びをすすめる。		
授業計画			
第 1 回：言葉の教育の移り変わり 第 2 回：領域「言葉」と他領域との関係① 第 3 回：領域「言葉」と他領域との関係② 第 4 回：言葉の獲得過程とその特徴① 第 5 回：言葉の獲得過程とその特徴② 第 6 回：言葉の発達を支える保育者の役割① 第 7 回：言葉の発達を支える保育者の役割② 第 8 回：子どもの言葉が育つ環境とは 第 9 回：領域「言葉」を踏まえた環境構成と指導計画① 第 10 回：領域「言葉」を踏まえた環境構成と指導計画② 第 11 回：話し言葉と書き言葉が伝える世界 第 12 回：ごっこ遊びと言葉 第 13 回：メディアと言葉 第 14 回：幼児教育の現代的課題と領域「言葉」 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える 子どもと言葉（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（60%）、受講態度（20%）、課題提出（20%）からの総合的に評価する。		

授業科目名： 保育内容領域（表現）		単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の発達や学びの過程を理解し、保育における「表現」とはどのようなものであるのか学習する。また、一人ひとりの子どもの豊かな表現を育てていくために保育者としてどのように援助すればよいのか理解を深める。		
授業の概要	領域「表現」のねらい及び内容をふまえ、乳幼児の表現を育む保育者の援助について考えていく。また、実践事例の検討を通して指導場面を具体的にイメージし、保育を構想する方法を身に付ける。		
授業計画			
第 1 回：オリエンテーション 子どもの表現活動について 第 2 回：歌遊び①手遊び 第 3 回：リズム遊び ①基本動作 第 4 回：リズム遊び ②基本動作の発展 第 5 回：歌遊び②わらべ歌 第 6 回：身近な素材を使った表現活動①ビニール袋 第 7 回：身近な素材を使った表現活動②ハンカチ 第 8 回：歌遊び③童謡 第 9 回：模倣遊び①様々な動きの体験 第 10 回：模倣遊び②創作 第 11 回：模倣遊び③発表 第 12 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動①創作（大枠） 第 13 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動②創作（細部） 第 14 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動③創作（調整） 第 15 回：ストーリー（絵本、紙芝居など）を利用した表現活動④発表 定期試験			
テキスト	保育内容 領域 表現（わかば社） 文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
参考書 参考資料等	適宜プリント（資料等）を配布する。		
学生に対する評価	受講態度（20%）、レポート課題（20%）、期末試験（60%）から総合的に評価する。		



授業科目名： 乳児保育 I		単位数： 2 単位	担当教員：新海 智子
			授業形態：単独 講義
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 乳児保育の意義・目標と歴史の変遷及び役割等について理解する。</li> <li>・ 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。</li> <li>・ 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容について理解する。</li> </ul>		
授業の概要	乳児保育の意義・目的と歴史の変遷を踏まえ、保育所、乳児院などにおけるさまざまな乳児保育の現状を知る。また、乳児の発育・発達の過程や特性を学び、「乳児保育の基礎となる考え方」についての理解を深めていく。		
授業計画			
第 1 回：乳児保育の意義・目的 第 2 回：乳児保育の歴史と現状 第 3 回：乳児保育の様々な場と多様化するニーズ 第 4 回：乳児に関わる制度と法律 第 5 回：乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 第 6 回：保育所保育指針における乳児保育とは 第 7 回：保育所保育指針①0 歳児の保育の「ねらい及び内容」 第 8 回：保育所保育指針②1 歳以上 3 歳未満児の保育の「ねらい及び内容」 第 9 回：3 歳児以上に移行する時期の保育 第 10 回：乳児のこころの発達 第 11 回：乳児のことばの発達 第 12 回：乳児のからだの発達 第 13 回：乳児のあそびと環境作り①0 歳児 第 14 回：乳児のあそびと環境作り②1 歳児 第 15 回：乳児のあそびと環境作り③2 歳児 定期試験			
テキスト	志村聡子編著『はじめて学ぶ乳児保育』 同文書院		
参考書 参考資料等	吉本和子『乳児保育一人ひとりが大切に育てられるために』 エイデル研究所 厚生労働省『保育所保育指針』（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40%）、試験（60%）		

授業科目名： 乳児保育Ⅱ		単位数： 1単位	担当教員：新海 智子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3歳未満児の発達を踏まえた援助や関わり方について理解する。</li> <li>・乳児保育における保育計画の作成について理解する。</li> <li>・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する</li> </ul>		
授業の概要	3歳未満児の発育・発達の特徴を理解し具体的な援助や関わり方について学ぶ。また、「全体的な計画」を踏まえて、これまで学んだことを活かし一人ひとりが大切に育つことができる保育の計画を作成していく技術を身に付けていく。さらに、保護者や他の関係機関との連携を学び、これからの乳児保育と保育者に求められるものを学ぶ。		
授業計画			
第1回：乳児保育の重要性 第2回：保育所の一日の流れ 第3回：乳児保育における内容と方法①抱っこ・着脱・排泄・清潔 第4回：乳児の保育における内容と方法②調乳・授乳・食事 第5回：乳児の保育における内容と方法③睡眠・生活リズム 第6回：乳児保育における安全管理と衛生管理 第7回：乳児保育と連携①保育所・他職種 第8回：乳児保育と連携②保護者・地域 第9回：特別な配慮を必要とする子ども 第10回：保育の記録と評価 第11回：全体的な計画と指導計画 第12回：0歳児保育の計画と援助 第13回：1歳児保育の計画と援助 第14回：2歳児保育の計画と援助 第15回：これからの乳児保育に求められるもの 定期試験			
テキスト	志村聡子編著『はじめて学ぶ乳児保育』 同文書院		
参考書 参考資料等	吉本和子『乳児保育一人ひとりが大切に育てられるために』 エイデル研究所 今井和子『育ちの理解と指導計画』 小学館 厚生労働省『保育所保育指針』（平成29年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携認定型こども園教育・保育要領』（平成29年度告示）		
学生に対する評価	受講態度・提出物（40%）、試験（60%）		

授業科目名： 子どもの健康と安全		単位数： 1 単位	担当教員名：新海 智子 授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>子どもの健康および安全について、発達ごとに踏まえておきたい知識を学び身に付け、子どもの生命を守るために必要な、また衛生的で健康な生活に必要な環境が管理できる意識を養う。</p> <p>保育者にとって必要な、アレルギーや予防接種、感染症などの予防と対応、障害児への対応や緊急時に対応できるための危機管理に関する正しい知識を身に付ける。</p>		
授業の概要	<p>(1) 子どもの健康で安全な生活に必要な環境を理解する (2) 保育者として必要な、子どもの衛生、体調不良や怪我、事故、アレルギーや障害などへの知識や実際的な対応方法を理解する。</p> <p>1) 保育における子どもの健康と安全のために必要な環境について具体的に理解している 2) 子どもの健全な育ちに必要な、保護者や保育者間の連携の重要性を理解している 3) 健康と安全を子どもが意識して生活できる関わり方について自分の考えを持っている 4) 感染症疾患、アレルギーなどに対する予防と対策および対応について理解している 5) 子どもの怪我、疾病、生命の危険などの緊急時に必要な知識や対応を習得している</p>		
授業計画			
<p>第 1 回：ガイダンス（授業の進め方、評価方法、科目の説明）</p> <p>第 2 回：子どもの健康と安全とは</p> <p>第 3 回：子どもの健康と保育の環境・衛生管理①（適切な環境）</p> <p>第 4 回：子どもの健康と保育の環境・衛生管理②（適切な衛生管理）</p> <p>第 5 回：保育における健康観察</p> <p>第 6 回：個別の健康状態の把握とデータ管理</p> <p>第 7 回：子どもの養護の実際①（だっこ、おんぶ、オムツ替え）</p> <p>第 8 回：子どもの養護の実際②（沐浴）</p> <p>第 9 回：子どもの養護の実際③（生活習慣と達成援助）</p> <p>第 10 回：健康と安全の管理①（感染症への対応）</p> <p>第 11 回：健康と安全の管理②（事故への対応）</p> <p>第 12 回：健康と安全の管理③（危機管理・災害への対策）</p> <p>第 13 回：健康と安全の管理④（子どもの体調不良などへの対応）</p> <p>第 14 回：保育における保健的対応</p> <p>第 15 回：健康及び安全の管理体制</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	子どもの健康と安全（学建書院）		
参考書・ 参考資料等			
学生に対する評価	受講態度 20%、レポート 20%、期末試験 60%から総合的に評価する。		

授業科目名：障害児保育		単位数： 2単位	担当教員：末広 杏里
		授業形態：単独 演習	
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 障害児保育の理念について学び、障害をもつ子どもの理解や支援に興味・関心をもつことができる。 2. 様々な障害について理解し、障害をもつ子どもやその家族の支援について考え、説明することができる。 3. 障害児保育の現状について説明することができる。		
授業の概要	障害児保育の基礎的な知識を身につけ、その具体的な支援について実践力を習得するために、テキストに基づく講義、映像資料、グループディスカッションにより理解を深める。		
授業計画			
第1回：オリエンテーション・障害児保育を学ぶ意義について 第2回：「障害」の概念 第3回：障害児保育の歴史の変遷 第4回：インクルージョンと合理的配慮 第5回：肢体不自由のある子どもの理解と援助 第6回：知的障害を有する子どもの理解と援助 第7回：視覚障害を有する子どもの理解と援助 第8回：聴覚障害を有する子どもの理解と援助 第9回：言語障害を有する子どもの理解と援助 第10回：発達障害の理解と援助 第11回：発達障害を有する子どもの理解と援助（ADHD） 第12回：発達障害を有する子どもの理解と援助（LD） 第13回：発達障害を有する子どもの理解と援助（ASD） 第14回：重症心身障害を有する子ども、医療的ケアを必要とする子どもの理解と援助 第15回：前期のまとめ、レポート提出			

授業計画

第 16 回：夏期課題の発表  
 第 17 回：指導計画及び個別の支援計画  
 第 18 回：個別の支援計画の作成と発表  
 第 19 回：発達をうながす生活や遊びの環境  
 第 20 回：発達をうながす生活や遊びの環境の構成と発表  
 第 21 回：障害児保育における子どもの健康と安全  
 第 22 回：行動問題の捉え方  
 第 23 回：職員間の連携・協働  
 第 24 回：保護者に対する理解及び交流や支え合いの意義と支援  
 第 25 回：地域の専門機関との連携  
 第 26 回：専門機関の実際の調査と発表  
 第 27 回：小学校等との連携  
 第 28 回：福祉・教育における現状と課題  
 第 29 回：後期のまとめ・レポート提出  
 第 30 回：1 年のまとめ  
 定期試験

テキスト	新基本保育シリーズ 17 障害児保育（中央法規出版）
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」、厚生労働省「保育所保育指針」
学生に対する評価	期末試験（50%）、レポート（30%）、出席及び演習の参加状況（20%）を総合的に評価する。

## 8. 教育実践に関する科目

授業科目名： 教育実習	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員： 森川みゆき・船田 鈴子 授業形態：複数 実習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習について理論的な学びを踏まえ、乳児の生活や遊びの場面に関わることを通して、教育者としての愛情や使命感を深める。</li> <li>・実際に幼児に関わる体験を積み、教育者になるにあたっての実践的能力や適性を考えると共に研究課題を明らかにする。</li> </ul>		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育実習の意義を理解する。</li> <li>(2) 各領域や教職に関する専門的な知識、技術などを実際実践することができるための基礎を身につける。</li> <li>1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、意欲的に実習に参加することができる。</li> <li>2) 実習を通して幼児の実態を観察し、事実に基づいて記録することができる。</li> <li>3) 実習指導教諭の補助的な役割を担い、担任の役割や職務内容について理解している。</li> <li>4) 幼教要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し保育を実践したり、様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。</li> </ul>		
授業方法			
<p><b>【学外実習】教育実習の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①幼児との生活を通して、幼児を理解する。</li> <li>②授業で学んだことと実践との統合を図る。</li> <li>③幼稚園教諭の職務を理解し、その役割の一端を経験する。</li> <li>④具体的な指導技術を習得する。</li> <li>⑤幼稚園教諭としての自覚をもつ。</li> </ul> <p>以上の項目について2年次前期に2週間（教育実習Ⅰ、観察・参加）、2年次後期に2週間（教育実習Ⅱ、参加・部分・責任）の実習を指定された園で行う。</p> <p>原則として教育実習Ⅰ・Ⅱは同じ園で行う。</p>			

**【事前指導】**

実習を円滑に行うために以下の通り事前指導を行う。

**【授業計画】**

## 前期（1年次）

- 第1回：幼稚園教育の現状と課題
- 第2回：教育実習の概要
- 第3回：教育実習の目的と方法
- 第4回：教育実習の内容とねらい
- 第5回：幼児理解（ビデオより現場の観察と考察①）
- 第6回：幼稚園の教育課程と指導計画
- 第7回：実習記録の目的と必要性
- 第8回：指導案の目的と指導案作成のプロセス
- 第9回：見学、観察実習のねらいと方法
- 第10回：参加実習のねらいと方法
- 第11回：責任（部分・全日）実習のねらいと方法
- 第12回：オリエンテーションの方法と手続き
- 第13回：実習中の心構えと手続きについて
- 第14回：実習中に予想される問題について
- 第15回：幼稚園の実際：先輩教諭による講演「幼稚園教諭の一日」・まとめ

## 後期（1年次）

- 第1回：実習に向けての心構え
  - 第2回：オリエンテーションの準備
  - 第3回：実習に必要となる具体的な書類、持ち物等の準備
  - 第4回：実習生に求められる幼児との適切な関わり方①
  - 第5回：実習生に求められる幼児との適切な関わり方②
  - 第6回：保育観察の方法（実例を通して―①）
  - 第7回：保育観察の方法（実例を通して―②）
  - 第8回：実習日誌の意義と必要性
  - 第9回：実習日誌の具体的な取り方①
  - 第10回：実習日誌の具体的な取り方②
  - 第11回：実習日誌の具体的な取り方③
  - 第12回：指導案の意義と実際
  - 第13回：指導案の立て方（部分）
  - 第14回：指導案の立て方（全日）
  - 第15回：教育実習を終えた先輩（2年生）の実習体験談を聞く→グループ討論
- 試験

テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 幼稚園教育要領解説
参考書・参考書資料 等	プリント教材
学生に対する評価	実習園の評価（40%）、実習記録（20%）、受講態度・課題提出・試験（40%）から総合的に評価



## 9. 保育実習

授業科目名： 保育実習指導 I	/	単位数： 2 単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育実習		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習の意義や目的について理解する。また、実習をするために必要な知識や技術を習得し、自己課題を明確にすることを目標とする。		
授業の概要	保育実習の意義や目的について学ぶ。また、児童福祉施設の種別、それぞれの施設の機能や役割についてなど総合的に理解する。さらに、実習生としてのふさわしい心構えや態度、保育士としての職務内容、専門性について理解を深めていく。		
授業計画			
<p>第 1 回：授業ガイダンス、保育実習 I の意義と目的</p> <p>第 2 回：保育実習の種類／保育所について</p> <p>第 3 回：保育実習の方法及び内容</p> <p>第 4 回：保育実習の心構え／映像資料①</p> <p>第 5 回：保育実習の実際／映像資料②</p> <p>第 6 回：保育所のデイリープログラム</p> <p>第 7 回：プライバシーの保護と守秘義務（職業倫理について理解する）</p> <p>第 8 回：ボランティア活動について</p> <p>第 9 回：実習日誌の意義／実習日誌の書き方①基本的な日誌記録のあり方</p> <p>第 10 回：実習日誌の書き方②多様な日誌記録のあり方</p> <p>第 11 回：指導案の書き方</p> <p>第 12 回：自己課題の発見／実習書類準備（実習目標を明らかにする）</p> <p>第 13 回：実習学内オリエンテーション／実習書類準備</p> <p>第 14 回：実習先オリエンテーションについて</p> <p>第 15 回：まとめ</p>			

授業計画

第 16 回：授業ガイダンス、施設実習の意義と目的  
 第 17 回：施設実習の種類／児童福祉施設について  
 第 18 回：施設実習の方法及び内容  
 第 19 回：施設実習の心構え／映像資料①  
 第 20 回：施設実習の実際／映像資料②  
 第 21 回：施設実習の基本的理解  
 第 22 回：児童福祉施設のデイリープログラム  
 第 23 回：プライバシーの保護と守秘義務  
 第 24 回：ボランティア活動について  
 第 25 回：実習日誌の意義／実習日誌の書き方①  
 第 26 回：実習日誌の書き方②  
 第 27 回：指導案の書き方  
 第 28 回：自己課題の発見（保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善）  
 第 29 回：実習学内オリエンテーション／実習事前指導  
 第 30 回：まとめ  
 定期試験

<p>テキスト</p>	<p>保育所保育指針              幼保連携型認定こども園 教育・保育要領              実習まるわかりガイドブック（大学図書出版）              実践力がつく保育実習（大学図書出版）              福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい）</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）              厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）              内閣府・文部科学省・厚生労働省              「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示）              適宜プリント配布</p>
<p>学生に対する評価</p>	<p>試験（60%）、受講態度・課題提出（40%）の総合評価</p>



2年生



## 1. 教養科目

授業科目名： 情報機器の操作	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員：市村 裕
			授業形態：単独 演習
科 目	教養科目-情報機器の操作		
授業の到達目標 及びテーマ	高度情報通信社会において必要なメディアリテラシーを身に付け、パソコンの基本操作を習得する。		
授業の概要	メディアリテラシーについて理解し、ワード、エクセル、パワーポイントなどの基本的な操作方法を実習する。		
授業計画			
第 1 回： 年間授業計画・コンピュータ教室での使用方法・タイピング練習			
第 2 回： ワード①かんたんなおたよりを作成しよう 1			
第 3 回： ワード②かんたんなおたよりを作成しよう 2			
第 4 回： ワード③かんたんなおたよりを作成しよう 3			
第 5 回： ワード④図表が入ったおたよりを作成しよう 1			
第 6 回： ワード⑤図表が入ったおたよりを作成しよう 2			
第 7 回： ワード⑥図表が入ったおたよりを作成しよう 3			
第 8 回： ワード⑦図表が入ったおたよりを完成させよう			
第 9 回： ワード⑧図表が入ったおたよりの課題を時間内に完成させよう			
第 10 回： エクセル① 作表とかんたんな表計算をしよう 1			
第 11 回： エクセル② 作表とかんたんな表計算をしよう 2			
第 12 回： エクセル③ 作表とかんたんな表計算をしよう 3			
第 13 回： エクセル④ 作表とかんたんな表計算をしよう 4			
第 14 回： エクセル⑤ 作表とかんたんな表計算をしよう 5			
第 15 回： まとめ			

授業計画

第16回：プレゼンテーション① スライドの作成をしよう①  
 第17回：プレゼンテーション② スライドの作成をしよう②  
 第18回：プレゼンテーション③ 発表するテーマを決めよう  
 第19回：プレゼンテーション④ 課題のスライドを作成しよう1  
 第20回：プレゼンテーション⑤ 課題のスライドを作成しよう2  
 第21回：プレゼンテーション⑥ 課題のスライドを作成しよう3  
 第22回：プレゼンテーション⑦ 課題のスライドを作成しよう4  
 第23回：プレゼンテーション⑧ 発表1  
 第24回：プレゼンテーション⑨ 発表2  
 第25回：エクセル⑥ グラフと計算式を活用しよう1  
 第26回：エクセル⑦ グラフと計算式を活用しよう2  
 第27回：エクセル⑧ グラフと計算式を活用しよう3  
 第28回：エクセル⑨ グラフと計算式を活用しよう4  
 第29回：エクセル⑩ 表とグラフの課題を時間内に完成させよう  
 第30回：情報モラルについて  
 定期試験

テキスト	保育者のためのパソコン講座（萌文書林）
参考書 参考資料等	
学生に対する評価	授業中の提出物・課題・実技試験（70%）と発表（20%）出席(10%)での総合評価

## 2. 領域及び保育内容の指導法に関する科目

授業科目名： 子どもと健康	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：丸山 東人 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 領域「健康」について理解を深める。2. 領域「健康」について、そのねらいと内容の関係性、意味について理解を深める。3. 健康の基礎となる生活習慣の形成を育てるための援助のありかた、および援助の普遍性について理解する。		
授業の概要	子どもたちの健康、および健康の基礎となる生活習慣を育てるための方法論、実践論を事例および情報機器を用いて教授していく。乳幼児期のそれぞれの発達段階に基づき、健康の意味を自立する過程について学び、保育内容を構造する力を養う。		
授業計画			
<p>第 1 回：オリエンテーション この授業の意味について</p> <p>第 2 回：保育の基本としての健康</p> <p>第 3 回：領域「健康」のねらいと内容</p> <p>第 4 回：教材研究 1（健康に関わる教材を情報機器を用いて理解する）</p> <p>第 5 回：教材研究 2（健康に関わる教材の応用）</p> <p>第 6 回：子どもの発達からみた健康</p> <p>第 7 回：健康と身体表現との関係</p> <p>第 8 回：基本的な生活習慣の形成</p> <p>第 9 回：幼児の安全教育と危険について</p> <p>第 10 回：乳幼児の体の発達の特徴</p> <p>第 11 回：乳幼児の遊びからみた健康の意味</p> <p>第 12 回：自立への展開</p> <p>第 13 回：運動能力の課題（情報機器を用いて理解する）</p> <p>第 14 回：生活のリズムからみた健康（情報機器を用いて理解する）</p> <p>第 15 回：子どもの健康における現代的課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	テキスト：浅見均・渡部かなえ「改訂版 子どもの育ちを支える 子どもと健康」 大学図書出版、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	定期試験（60%）課題提出（20%）授業態度（20%）		



授業科目名： 子どもと音楽B	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員： 山浦 勝雄・洞庭 容子 加藤 瑞恵・山崎 未貴 担当形態：クラス分け 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容を理解する。ピアノ伴奏法の基礎知識を学ぶことによって効果的な活用方法を理解し保育現場で実践できる能力を培い、乳幼児の音楽活動に役立てることができる。領域「表現」において、子どもが経験し、身につけていく内容の関連性及び小学校の教科書等とのつながりを理解する。子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。 コードネームを理解し、基本的なコードの使い方を習得し、子どもの歌の旋律に伴奏を付ける技術を身につける。		
授業の概要	領域「表現」に示された育みたい資質能力を理解し、領域「表現」の狙い及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。保育現場における音楽指導上必要なコードネームによるピアノ伴奏法を学び、具体的な指導場面を想定して保育を構想する力や方法を身につける。		
授業計画			
<p>第1回：音階の仕組み 鍵盤図と五線譜の関係 和音について（長調と短調の構成の違い等について知る）</p> <p>第2回：長調コード、短調コードの関係性と理解</p> <p>第3回：主要三和音コードの理解</p> <p>第4回：ハ長調の主要三和音 C F G G7コードの理解</p> <p>第5回：ハ長調のC F G G7コードの曲を弾こう</p> <p>第6回：イ短調の主要三和音 Am Dm EE7コードの理解</p> <p>第7回：イ短調 Am Dm EE7コードの曲を中心に弾こう</p> <p>第8回：ハ長調、イ短調の主要三和音の曲を中心に弾こう</p> <p>第9回：様々な伴奏のパターンの曲を学ぶ</p> <p>第10回：ト長調の主要三和音 G C D コードの理解</p> <p>第11回：ト長調 G C D コードを弾こう</p> <p>第12回：ヘ長調の主要三和音 F B<math>\flat</math> Cコードの理解</p> <p>第13回：ヘ長調 F B<math>\flat</math> Cコードの曲を中心に弾こう</p> <p>第14回：様々な伴奏のパターンを試す（自分でつける&amp;弾き歌いができるようにする）</p> <p>第15回：まとめ 実技試験</p>			
テキスト	「幼児のための音楽教育」 教育芸術社・プリント教材		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
学生に対する評価	実技試験（60%）、授業態度（30%）、小テスト（10%）から総合的に評価する		

授業科目名： 子どもと表現A	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：山浦 勝雄 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	自らの能力を高める力を身につけ、豊かな感性や表現力を養う。様々な楽器の個性を知り、簡易な楽器を用いて子どもの発達に即した演奏技術を習得する。協同で表現して協調性を持って臨めると同時に、その実践を通して保育の場における音楽表現活動について考えることができる。		
授業の概要	領域「表現」の中で音楽活動が果たす役割について学び、幼児の表現活動をどのようにしたら引き出せるかを考察していく。また、様々な音楽表現の活動体験を通して、創作活動へと展開し、グループで発表する。子どもの表現活動を支援するための音楽の基礎知識や技術を学び、豊かな感性と表現力を身につけることを目指す。		
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス 領域「表現」理解する</p> <p>第2回：簡単なリズム理解から始め、正しい表現の基礎知識を知り、音楽の楽しみ方を知る。</p> <p>第3回：楽器を使った活動①様々な楽器の基本演奏法を知り、良い音で奏でることで豊かな感性を身につける。</p> <p>第4回：楽器を使った活動② 子どもの発達段階に合わせた楽器の使い方を身につける</p> <p>第5回：楽器を使った活動③ 単独奏から分担奏まで合奏の基本を知り、幅広く対応できるようにする。</p> <p>第6回：子どもの遊びや生活を豊かに育むための音楽活動について考える。</p> <p>第7回：歌い、動き、奏でる総合的な音楽表現についての判断力をつける。</p> <p>第8回：絵本や紙芝居等の効果音に楽器や手作り楽器を使うことで表現力を高める。</p> <p>第9回：音楽遊びやリズムを中心とする指導法を考える（グループワーク）①課題提示（創作）と説明</p> <p>第10回：音楽遊びやリズムを中心とする指導法を考える(グループワーク)②指導法の考案と作成</p> <p>第11回：グループで音楽表現活動を創作する ①話し合いと計画、創作</p> <p>第12回：グループで音楽表現活動を創作する ②創作</p> <p>第13回：グループによる発表</p> <p>第14回：グループ発表について、よりよい活動にするための意見交換（相互評価等）</p> <p>第15回：まとめ：保育現場における音楽活動について考察</p> <p>実技試験</p>			
テキスト	2020年改訂版「幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育」 教育芸術社		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
学生に対する評価	実技試験（70%）、受講態度（30%）から総合的に評価する		

授業科目名： 子どもと表現B	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：堀内 有子 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	保育者に必要な造形表現の基礎を身につけ、発達段階や活動に合わせて適材を選べるようになる。自らの様々な造形活動を通して「造形嫌い」と「作る楽しさ」について理解し、子ども達の楽しい造形活動を支えられるようになる。乳幼児の造形活動で使われることの多い表現技法や素材の特性について指導者としての立場から検証し材料の工夫や指導上の留意点などを導きだせるようになる。		
授業の概要	領域「表現」の中で造形が果たす役割について学ぶ。造形表現の技術演習を行う。その中で、幼児の造形活動で使われることの多い表現方法や素材について、教材研究の視点を持って検証し、その指導について学びながら、子どもたちの楽しい造形活動を支えられる保育者となるための造形表現の基礎を身につける。		
授業計画			
第1回：幼児の遊びに活用できる折りがみについて 第2回：色について 第3回：折染とマーブリング 第4回：コラージュ 第5回：スクラッチ 第6回：描画材について 第7回：切り紙① 第8回：切り紙② 第9回：立体カードの仕組み 第10回：粘土について 第11回：軽量粘土を使って① 第12回：軽量粘土を使って② 第13回：工作材について 第14回：変身衣装作り<ポリコレ> 第15回：作る楽しさについて 定期試験			
テキスト	使用しない		
参考書 参考資料等	「保育をひらく造形表現」萌文書林、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
学生に対する評価	課題提出（85%）、受講態度（15%）による総合評価		

授業科目名： 保育内容(健康)の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：丸山 東人 授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	グループディスカッションや映像等を活用して健康な身体と心を育て、健康な生活を作り出していく知識や技術を身につける。実践の場における具体的な健康指導について保育を構想する方法を身につけ実践力を高める。子どもの運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導法を身につける。		
授業の概要	子どもたちの健康に関して模擬保育、グループ討議や情報機器などを活用し、方法論、実践論を具体的事例を通して考察していく。そのことにより幼児期のそれぞれの遊びを通じた身体活動、食育、安全性などについての実践力を身につける。		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション この授業の意味について</p> <p>第2回：幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容の全体構造を理解する。</p> <p>第3回：基本的生活習慣の確立について：どのようなかわりかたをすれば食事、排泄、着脱衣、清潔の確立が育まれるかグループ毎に討議しまとめ、具体的な保育現場を想定した援助方法について理解する。</p> <p>第4回：遊びを通じた身体活動について：事例に沿ってグループ討議し、まとめたことをポスターセッションする。</p> <p>第5回：身体活動としての遊びの保育の実践（指導計画立案）</p> <p>第6回：身体活動としての遊びの保育の実践（模擬保育）</p> <p>第7回：身体活動としての遊びの保育の実践（模擬保育の振り返り） （振り返りを通して保育を改善する視点を身につけると共に、幼稚園教育における評価の考え方を理解する。）</p> <p>第8回：健康管理と安全能力を育む方法を中心とした援助のあり方についてグループ討議</p> <p>第9回：安全管理に関連した模擬保育の実践（振り返りと対応策：記録したデータや教材を活用し、保育を改善する視点やどのように安全への配慮を行ったらいいか等の確認をし合ったりして対話的・協同的な学びを行う。）</p> <p>第10回：情報機器や安全管理に関する教材を用いた模擬保育の実践</p> <p>第11回：模擬保育の実践（振り返りと対応策：記録したデータや教材を活用し、保育を改善する視点やどのように安全への配慮を行ったらいいか等の確認をし合ったりして対話的・協同的な学びを行う。）</p> <p>第12回：子どもの健康な心と体を育む環境（実際に環境図を構成する。）</p> <p>第13回：食育に関する取組の実際について（グループ討議後、子どもの食育に関する映像（お弁当）資料を作成し、ICTを利活用する。）</p> <p>第14回：運動遊びを中心とした指導のあり方と実際（個人課題提出後、グループ協議しグループとしてまとめたものを発表し理解を深める。）</p> <p>第15回：領域「健康」をめぐる現代的課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	浅見均・渡部かなえ「改訂版 子どもの育ちを支える 子どもと健康」大学図書出版、文部科学省「幼稚園教育要領」（平成29年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼稚園連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成29年度告示）		
参考書 参考資料等	特になし		
学生に対する評価	定期試験（60%）課題提出（20%）授業態度（20%）		

授業科目名： 保育内容(環境)の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員：石井 久美子 担当形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	環境への豊かなかかわりを育むための具体的な指導場面における留意点を理解し、保育を構想する方法を身につける。保育者の役割について理解するとともに、環境整備の充実や効果的な方法など環境構成の仕方について映像資料や具体的な実践例を通して理解を深める。模擬保育を実践し、振り返りを通して改善点に気づき、保育を構成する力を身につける。		
授業の概要	乳幼児を取り巻く環境や課題を踏まえた上で、領域「環境」のねらいや内容に関連づけながら乳幼児と環境とのかかわりについて理解を深める。乳幼児の興味や関心について理解し、具体的な指導場面を想定しながら保育を構想する方法や発達に即した計画のあり方について実践力を身につける。		
授業計画			
<p>第1回：幼稚園教育の基本と領域「環境」のねらい及び内容について理解する</p> <p>第2回：子どもの発達と「環境」について（幼児期にふさわしい環境について実際の環境を撮影した資料を見ながらまとめポスターセッションする）</p> <p>第3回：固定遊具・移動遊具の園内環境について （固定遊具や移動遊具の配置及びそれらの遊具の意義について知り、環境構成のあり方を学ぶ）</p> <p>第4回：身近な環境の中での子どもの遊び（子どもの喜ぶ遊びや活動はどのような環境の中から生まれるのかを子どもの実態や事例に沿って対話的・協同的に検討し、遊びのガイドブックを作成する）</p> <p>第5回：自然・植物を取り入れた保育の実際（指導計画立案）</p> <p>第6回：自然・植物を取り入れた保育の実際 （模擬保育・・・自然物の葉や実等を使用したおもちゃ作りや作った物を使っての遊び方の実践）</p> <p>第7回：自然・植物を取り入れた保育の振り返り （模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につける）</p> <p>第8回：飼育物などに触れる保育の実際（園で飼育している動物を ICT を使って子どもが描き、描いたものを活用した飼育のあり方等を知る保育の実践を行う）</p> <p>第9回：文字や標識とのかかわり（子どもの周りにある文字や標識の作成において、子どもが ICT を利用しながら色や形の違いに気づくような保育の実践を行う）</p> <p>第10回：数量や図形とのかかわり（園生活での活動や折り紙などの教材を通して、子どもたちが数量や図形に気がついていく過程について知る）</p> <p>第11回：子どもの生活にかかわる行事とのかかわり（園内外の行動を通して、子どもにとって身近で親しみのある行動についてディスカッションし、行事ごとの説明資料を作成する）</p> <p>第12回：身近な社会とのかかわり（子どもが訪問可能な施設を選択し、その施設の特性や役割について理解し、園外保育につなげていく方法を学ぶ）</p> <p>第13回：園庭・園外保育の環境 （事前調査を行った上で、利用・使用方法を取り入れたガイドブックの作成をする）</p> <p>第14回：安全な保育環境の立案（事故や安全に関する具体的な事例を通して、子どもの安全な保育環境についてグループごとに討議し合い、指導案を立案する）</p> <p>第15回：まとめ～環境を通して行う保育と現代的課題～</p> <p>定期試験</p>			

テキスト	保育実践を生かす保育内容 「環境」(教育情報出版)
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」(平成 29 年度告示) 厚生労働省「保育所保育指針」(平成 29 年度告示) 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」(平成 29 年度告示)
学生に対する評価	試験 (60%)、課題提出 (20%)、受講態度 (20%) の総合評価

授業科目名： 保育内容（表現） の指導法	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員：森川 みゆき
			授業形態：単独 演習
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	領域「表現」のねらい及び内容について理解をしたうえで、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想し、実践する力を身につける。		
授業の概要	子どもがより豊かに表現活動を楽しむのに保育者としてどのような指導、援助が必要からあらゆる場面を想定して計画し、実践する。		
授業計画			
第 1 回：領域「表現」について 第 2 回：指導案の書き方 第 3 回：造形表現の実践について（ごっこ遊び） 第 4 回：指導案作成①（個別） 第 5 回：指導案作成②（グループ） 第 6 回：表現活動に向けた準備（ごっこ遊び） 第 7 回：模擬保育①（ごっこ遊び） 第 8 回：模擬保育②（ごっこ遊び） 第 9 回：模擬保育③（ごっこ遊び） 第 10 回：身体表現の実践について（創作ダンス） 第 11 回：グループワーク①（ダンス創作：大枠） 第 12 回：グループワーク②（ダンス創作：細部） 第 13 回：グループワーク③（指導案作成） 第 14 回：模擬保育④（創作ダンス） 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	保育内容 要領 表現（わかば社）		
参考書 参考資料等	プリント教材		
学生に対する評価	定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題提出（30%）により総合的に評価する。		

### 3. 教育の基礎的理解に関する科目

授業科目名： 子ども社会学	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：五十嵐 淳子 授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域の連携及び学校安全の対応を含む。）		
授業の到達目標 及びテーマ	変わりゆく社会の状況を理解し学校教育への影響や課題及び対応策について理解する。学校と行政機関との連携、協働のあり方や重要性について学ぶ。学校や教育行政機関の目的やその現実のための学校経営の姿勢を理解し、開かれた学校づくりの必要性和課題、安全教育の重要性について基礎的な知識を身に付ける。		
授業の概要	子どもを取り巻く現代社会の課題を踏まえ、子どもの指導上の課題について把握する。学校と地域との連携、協働のあり方を事例を通して理解する。学校の教育活動の流れや学習評価についての基礎的な理論を学ぶ。学校の危機管理体制や事故対応などについての具体的な取り組みにも触れる。		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 授業の進め方、子どもと社会について</p> <p>第2回：諸外国の教育改革の動向</p> <p>第3回：子どもを取り巻く学校の現状</p> <p>第4回：子どもの生活の変容について～映像を通して考える～</p> <p>第5回：地域の連携・協働による学校教育活動の事例</p> <p>第6回：地域に開かれた学校を目指した事例</p> <p>第7回：学校の教育活動と年間の流れ</p> <p>第8回：学校評価と PDCA サイクル</p> <p>第9回：学校における安全管理と危機管理</p> <p>第10回：教職員と外部の関係機関との連携のあり方</p> <p>第11回：学級経営と教師の役割</p> <p>第12回：生活安全、交通安全、災害安全、を踏まえた安全上の課題</p> <p>第13回：事故や災害に対する学校の危機管理体制のあり方と対応策</p> <p>第14回：地域との連携と協働の意義と方法～事例を通して映像から学ぶ～</p> <p>第15回：まとめ～これからの学校の教育指導と対応策～</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	五十嵐 淳子「海外研修ハンドブック」大学図書出版 五十嵐 淳子「多文化理解・国際理解・多様性の尊重を目指して」 大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（40%）、受講態度（10%）、課題提出（10%）、発表（50%）		



授業科目名： 教育・保育の心理学	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員：早川 貴子 授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	子どもの発達を理解することの意義に触れ、発達過程を学ぶ。また、子どもの学びを支える理論として、学習、動機付け、社会性、情動など保育や教育に必要な心理学的知識について習得する。		
授業の概要	(1) 子どもの発達の基礎を学習する。 1) 情動の発達について理解する。 2) 道徳・向社会的行動の発達について理解する。 3) 規範の認識発達について学ぶ。 4) 自己の発達について学ぶ。 (2) 子どもの学びと保育について学ぶ。 1) 子どもの遊びについて考察する。 2) 子どもの学びを支える保育について考える。 (3) 教育に必要な基礎知識を学ぶ 1) 学習の基礎とその理論について学ぶ 2) 学習の動機付けについて学ぶ。 3) 学習の過程について学ぶ。		
授業計画			
第1回： 教育と保育の心理学 第2回： 子どもの発達過程（1）情動 第3回： 子どもの発達過程（2）幼児の社会性 第4回： 子どもの発達過程（3）児童以降の社会性 第5回： 子どもの発達過程（4）道徳・向社会的行動の発達 第6回： 子どもの発達過程（5）規範の認識 第7回： 子どもの発達過程（6）自己の芽生え 第8回： 子どもの学びと保育（1）遊び 第9回： 子どもの学びの保育（2）遊び 第10回： 子どもの学びと保育（3）子どもの学びを支える保育 第11回： 教育心理学（1）学習行動の基礎とその理論 第12回： 教育心理学（2）学習の動機付け 第13回： 教育心理学（3）学びの過程と特徴 第14回： 教育心理学（4）保育に生かす教育心理学 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト			
参考書 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）、		
学生に対する評価	受講態度・課題提出（10%）、試験（90%）、から総合的に評価する。		

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員：五十嵐 淳子 授業形態：単独 講義
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	現代の特別支援教育が抱える諸問題について理解することを目的とする。現代の特別支援教育が抱える課題について事例を交えながら理解を深め、説明することができる。特別に支援が必要な子どもや児童の発達の特性について理解する。特別な支援を必要とする子どもの支援方法について理解する。		
授業の概要	特別支援教育の基礎知識と考え方を踏まえ、現代社会における教育のあり方や特別な支援が必要な子どもに対しての学級担任の役割や支援方法に対する理解を深め、教育の質ということに視点を置いた授業を行う。支援が必要な子どもに対しての支援方法に対する理解を深め、特別な教育的ニーズにある子どもの状況を知り支援方法を学ぶ。		
授業計画			
<p>第 1 回：オリエンテーション～インクルーシブ教育とは～</p> <p>第 2 回：発達障害、軽度知的障害の幼児、児童の支援</p> <p>第 3 回：視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由などの様々な障害について</p> <p>第 4 回：気になる子ども・児童への支援方法～映像を通して～</p> <p>第 5 回：進級による指導と自立行動</p> <p>第 6 回：特別な支援を必要とする子どもの学習困難と生活困難について</p> <p>第 7 回：インクルーシブ教育と統合教育</p> <p>第 8 回：特別な支援が必要な子どもへの支援方法の実際～事例を通して学ぶ～</p> <p>第 9 回：特別支援教育における個別指導計画の立案</p> <p>第 10 回：特別支援教育における個別教育支援計画の立案</p> <p>第 11 回：特別な教育的ニーズが必要な子どもへの支援</p> <p>第 12 回：子どもの貧困の問題について考えるグループ活動を通して～</p> <p>第 13 回：家庭と連携、地域との連携～特別支援教育のコーディネーター、関係機関との連携～</p> <p>第 14 回：外国籍の子どもの支援の実際</p> <p>第 15 回：現代の特別支援教育の問題と課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	著者：杉野 学 「特別支援教育概論」 大学図書出版		
参考書 参考資料等	文部科学省「幼稚園教育要領」（平成 29 年度告示）、厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）、内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成 29 年度告示）		
学生に対する評価	定期試験（50%）、課題提出（10%）、受講態度（10%）小テスト（30%）		

#### 4. 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

授業科目名： 幼児教育方法論	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員：森 和宏 授業形態：単独 講義
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	1. 幼児教育・保育方法の基礎的理論を理解するとともに、幼児教育・保育を構成する諸要素について理解する。 2. 子どもたちに求められる資質・能力を育むための指導や支援の方法を理解し、その評価の基本的な考え方を身につける。 3. 幼児教育・保育のねらいに応じた指導理論について理解し、それらをもとに指導計画を作成し、実践に応用する力を身につける。 4. メディアリテラシーを含む子どもたちの情報活用能力を育む指導の方法を理解し、実際に情報機器を実践場面で活用する力を身につける。		
授業の概要	幼児教育・保育の基本的な方法を理解するために、その基盤となる基礎理論について学習する。次に、幼児教育・保育のねらいに応じた指導や支援を行うための具体的な理論と実践について、保育形態や保育の環境、子ども理解や、発達の観点などの多様な観点から学習する。加えて、これからの時代の幼児教育・保育方法を考える上で不可欠になる情報機器の活用について、メディアリテラシーや情報活用能力を育む指導方法・実践について学習する。		
授業計画			
第1回： イントロダクション 第2回： 幼児教育・保育方法の基礎1：「幼児教育・保育」の独自性とは何か 第3回： 幼児教育・保育方法の基礎2：幼児教育・保育を支える環境 第4回： 幼児教育・保育方法の基礎3：子どもたちに求められる資質・能力 第5回： 幼児教育・保育方法の基礎4：子どもたちの姿をいかに評価するか 第6回： 幼児教育・保育方法の理論と実践1：幼児教育・保育の形態 第7回： 幼児教育・保育方法の理論と実践2：個の視点と集団の視点 第8回： 幼児教育・保育方法の理論と実践3：子どもの発達とその支援 第9回： 幼児教育・保育方法の理論と実践4：子ども理解を実践に活かす 第10回： 幼児教育・保育方法の理論と実践5：子どもの「遊び」 第11回： 幼児教育・保育方法の理論と実践6：幼児教育・保育における計画と評価 第12回： 幼児教育・保育方法の理論と実践6：インクルーシブな幼児教育・保育に向けて 第13回： 幼児教育・保育におけるメディアの活用1：情報活用能力を育む指導 第14回： 幼児教育・保育におけるメディアの活用2：メディアリテラシーの涵養 第15回： まとめ 定期試験			
テキスト	使用しない。		
参考書 参考資料等	特に指定しない。授業中に適宜紹介する。		
学生に対する評価	授業参加の態度（30%）、リアクションペーパー・ワークシートの提出（70%）を定期試験に代えて、総合的に評価する。		

授業科目名： 教育相談	教員免許取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：高田 伸枝 授業形態：単独 演習
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論 及び方法		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育相談の重要性を理解し、教育相談に必要な知識や技術を習得する。</li> <li>・教育相談の役割と特徴を理解し、教育相談の方法と基礎理論を学ぶ。</li> <li>・子どもや保護者をめぐる多様な課題を多面的に理解するとともに、適切な支援方法を学ぶ。</li> <li>・幼児にみられる具体的な問題についての知見を深め、特別な配慮が必要な発達障害等についても理解を深める。</li> </ul>		
授業の概要	<p>保育現場において保育者は、子ども達や保育者・地域からの相談に応じることが求められるようになってきている。</p> <p>教育相談の意義や目的を理解し、教育相談の知見から保育の実践者として不可欠な知識、技術について学習、習得する。</p>		
授業計画			
<p>第 1 回：教育相談の在り方</p> <p>第 2 回：保育所・幼稚園における教育相談</p> <p>第 3 回：乳児期の発達理解と相談・支援</p> <p>第 4 回：乳児期・学童期・思春期の発達理解と相談・支援</p> <p>第 5 回：保護者への対応</p> <p>第 6 回：子育て支援</p> <p>第 7 回：発達障害① LD 学習障害 特徴とその支援</p> <p>第 8 回：発達障害② ADHD 注意欠如多動症 特徴とその支援</p> <p>第 9 回：発達障害③ 自閉症スペクトラム症 特徴とその支援</p> <p>第 10 回：発達障害を持つ子どもの保護者へのかかわり</p> <p>第 11 回：子どもの発達とアセスメント</p> <p>第 12 回：カウンセリングの基礎理論</p> <p>第 13 回：カウンセリングの基本事項</p> <p>第 14 回：カウンセリングの技法</p> <p>第 15 回：ふりかえりとまとめ</p>			

授業計画

第16回：保育におけるコンサルテーション  
 第17回：人的資源・社会的資源との連携  
 第18回：保育者の相談活動  
 第19回：教育相談を介した園内・園外との連携  
 第20回：体験学習・実習観察報告書作成  
 第21回：体験学習・実習観察報告発表 ①相談支援について  
 第22回：体験学習・実習観察報告発表 ②発達障害及び気になる子どもについて  
 第23回：対人関係のトレーニング ①基礎的対人関係とは  
 第24回：対人関係のトレーニング ②トレーニングの実践  
 第25回：幼児・児童における諸問題 ①習癖  
 第26回：幼児・児童における諸問題 ②不登校・いじめ  
 第27回：幼児・児童における諸問題 ③虐待・ネグレクト  
 第28回：事例検討 保護者からの相談 ①子育ての悩み  
 第29回：事例検討 保護者からの相談 ②就学に向けて  
 第30回：まとめ  
 定期試験

テキスト	子どもの理解と保育・教育相談（株式会社みらい）
参考書・参考資料等	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
学生に対する評価	授業態度・課題提出（40%）、試験（60%）からの総合的に評価する。

## 5. 教育実践に関する科目

授業科目名： 教育実習事前事後指導	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員： 森川 みゆき・船田 鈴子 授業形態：単独 演習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	教育実習の意義や目的について理解し、実習で取り組むべき目標を明確にする。また、実習後の反省を踏まえ、自己の課題を見出しながら保育者として必要な知識や能力を身につける。		
授業の概要	教育実習の事前事後指導を行う。事前指導では、実習に臨むにあたって必要とされる基本的な心構えや態度、実習日誌及び指導案の書き方について理解を深める。事後指導では、実習の振り返りを通して今後の課題を明確化したうえでその克服に向けた行動計画を立てる。		
授業計画			
第1回：教育実習の意義と目的 第2回：教育実習の基本的事項の理解 第3回：教育実習に向けた心構え 第4回：実習日誌の意義と目的 第5回：実習日誌の書き方 第6回：事前指導（実習目標の設定） 第7回：事前指導（実習に向けた個別の準備） 第8回：指導案の意義と目的 第9回：指導案の書き方 第10回：事後指導（提出物等のまとめ） 第11回：事後指導（実習の振り返り：個別） 第12回：事後指導（実習の振り返り：グループワーク） 第13回：事後指導（個別課題の設定） 第14回：事後指導（今後の活動計画の立案） 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版）		
参考書 参考資料等	プリント教材		
学生に対する評価	定期試験（50%）、受講態度（20%）、課題提出（30%）により総合的に評価する。		

授業科目名： 教育実習	教員の免許取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員： 森川みゆき・船田 鈴子
			授業形態：複数 演習
科 目	教育実践に関する科目		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習について理論的な学びを踏まえ、乳児の生活や遊びの場面に関わることを通して、教育者としての愛情や使命感を深める。</li> <li>・実際に幼児に関わる体験を積み、教育者になるにあたっての実践的能力や適性を考えると共に研究課題を明らかにする。</li> </ul>		
授業の到達目標 及びテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育実習の意義を理解する。</li> <li>(2) 各領域や教職に関する専門的な知識、技術などを実際実践することができるための基礎を身につける。</li> <li>1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、意欲的に実習に参加することができる。</li> <li>2) 実習を通して幼児の実態を観察し、事実に基づいて記録することができる。</li> <li>3) 実習指導教諭の補助的な役割を担い、担任の役割や職務内容について理解している。</li> <li>4) 幼教要領及び幼児の実態を踏まえた適切な指導案を作成し保育を実践したり、様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。</li> </ul>		
授業方法			
<p><b>【学外実習】教育実習の目的</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①幼児との生活を通して、幼児を理解する。</li> <li>②授業で学んだことと実践との統合を図る。</li> <li>③幼稚園教諭の職務を理解し、その役割の一端を経験する。</li> <li>④具体的な指導技術を習得する。</li> <li>⑤幼稚園教諭としての自覚をもつ。</li> </ul> <p>以上の項目について2年次前期に2週間（教育実習Ⅰ、観察・参加）、2年次後期に2週間（教育実習Ⅱ、参加・部分・責任）の実習を指定された園で行う。</p> <p>原則として教育実習Ⅰ・Ⅱは同じ園で行う。</p>			
<p><b>【事前、事後指導】</b></p> <p>実習を円滑に行うために以下の通り、事前、事後指導を行う。</p>			

【授業計画】

前期（2年次）

- 第1回：教育実習の要点の確認
- 第2回：本実習に向けての心構えと準備
- 第3回：教育実習の理解
- 第4回：教育実習Ⅰ（本実習）指定された園にて実習（2週間）
- 第5回：実習を終えて（振り返りが意味すること）
- 第6回：実習全体の自己評価（個別指導）
- 第7回：実習の反省と学び① 個々の反省と課題と発見
- 第8回：実習の反省と学び② 園の役割や教育の特長
- 第9回：実習の反省と学び③ 子どもとの関わりや保育技術
- 第10回：実習の反省と学び④ グループでの話し合い
- 第11回：実習中に多い悩みや疑問について①グループで話し合い
- 第12回：実習中に多い悩みや疑問について②発表、まとめ
- 第13回：実習の振り返りと自己評価
- 第14回：教育実習Ⅱに向けての自己課題について（個人面接）
- 第15回授業のまとめ

後期（2年次）

- 第1回：本実習に向けての心構えと準備
  - 第2回：責任実習に向けて（実習時期の園生活について）
  - 第3回：教育実習Ⅱ（本実習）指定された園について実習（2週間）
  - 第4回：実習を終えて（振り返りが意味すること）－（個別指導）
  - 第5回：実習全体の自己評価－（個別指導）
  - 第6回：実習の反省と学び①個人の反省と課題
  - 第7回：実習の反省と学び②実習記録や指導案の書き方の確認（個別の実習記録、指導案を使って）  
→グループ討議
  - 第8回：実習の反省と学び③子どもとの関わりや保育技術の確認（事例を通して）→グループ討議
  - 第9回：実習の反省と学びのまとめ（グループ毎に発表）
  - 第10回：実習の振り返りと自己評価①ワークシート
  - 第11回：実習の振り返りと自己評価②個人面接
  - 第12回：教育実習Ⅰ、Ⅱ（2回の本実習）を通しての学びと今後の課題
  - 第13回：実習報告会の準備（原稿作り）
  - 第14回：実習報告会（1年生も参加）
  - 第15回：授業のまとめ
- 定期試験



テキスト	子どもの育ちを支える幼稚園教育実習（大学図書出版） 幼稚園教育要領解説
参考書・参考資料等	プリント教材
学生に対する評価	実習園の評価（40%）、実習記録（20%）、受講態度・課題提出・試験（40%） から総合的に評価

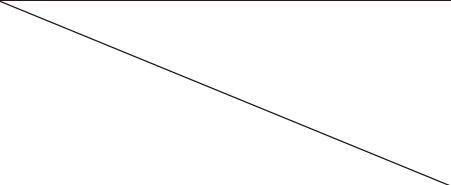
授業科目名： 保育・教職実践演習	教員の免許取得のための 必修科目		単位数： 2単位		担当教員：船田 鈴子
	授業形態：単独 演習				
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	2年次前後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数	25人				
教員の連携・協力体制	個人及びGでの模擬授業の実践を取り入れたり、受講者をグループ分けしたりしながら子どもの育ち学びを支援するための知識・技術の向上を目指すために5人の教員でグループ毎に研究指導する。				
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1)保育者として身につけるべき資質能力とは何かを明確に理解する。</p> <p>(2)保育に関する諸問題についてあらゆる角度から分析し、その問題を解決するための方策を提案したり実践する。</p> <p>1) 保育者として必要な資質能力について理解している。</p> <p>2) 自らの課題を発見し、解決に向けて行動できる。</p> <p>3) 保育に関する諸問題を多面的に捉えることができる。</p> <p>4) 保育者として必要な資質能力を習得している</p>				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学生が身に付けた資質能力が保育者として最小限必要な実践的指導力として有機的に統合され、形成されたかについて確認をする。この科目を履修するまでに履修科目の状況を踏まえて、教職に就く者として、の身に付けるべき必要な力や、自己課題を発見し、課題解決に励み、即実践力としての力量を高める。</li> <li>・ 保育に関わる諸問題を整理しながら、それぞれの問題への総合的理解を深めるために、受講生全員自らが取り上げる課題について、調査、分析、考察、検討を加え、問題解決能力を身につける、さらに、そのような研究の成果を論文としてまとめたり、研究発表したりすることで、総合的な学びの方法論を習得する。</li> </ul>				
補 完 指 導	履修カルテを参照し、個別に補完的な指導を行う。				
授業計画					
<p>第1回：保育・教職実践演習の進め方及びこれまでの学修の振り返り</p> <p>第2回：教職の意識と役割及び職務内容についての確認</p> <p>第3回：保育に関わる諸問題の整理（1）ブレイン・ストーミング</p> <p>第4回：保育に関わる諸問題の整理（2）ロールプレイング</p> <p>第5回：保育に関わる諸問題の整理（3）ディスカッション(問題構造の理解)</p> <p>第6回：保育に関わる問題の研究（1）保育に関わる問題を探究することの意義について講義</p>					

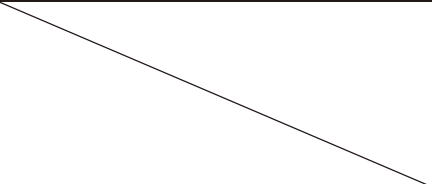
授業計画

- 第7回：保育に関わる問題の研究（2）研究テーマの選定方法について講義・グループ討論  
 第8回：保育に関わる問題の研究（3）研究テーマの類型化毎にグループ討論①  
 第9回：保育に関わる問題の研究（4）研究テーマの類型化毎にグループ討論②  
 第10回：保育者に求められる基本的技能・資質についてのグループ討論  
 第11回：模擬授業  
 第12回：模擬授業  
 第13回：保育者として必要な知識技能の確認  
 第14回：前期のまとめ  
 第15回：前期の当該科目の学修の確認  
 第16回：幼稚園教諭による講演「幼稚園教諭の生活と実際」  
 第17回：豊かな人間性の保持・教育の原理や方法についての知識、保育内容などの指導力について  
 グループ討論  
 第18回：豊かな人間性の保持・教育の原理や方法についての知識、保育内容などの指導力について  
 グループ討論  
 第19回：幼児理解の確認(1)・・・グループに分かれて事例研究・討論①  
 第20回：幼児理解の確認(2)・・・グループに分かれて事例研究・討論②  
 第21回：幼児理解の確認(3)・・・グループ毎に事例研究の結果についてまとめ発表  
 第22回：幼稚園教諭の職務内容についてグループ討論・ロールプレイング  
 第23回：相談活動（子育て支援）についてグループ討論・ロールプレイング  
 第24回：保育に関連する諸問題から個々の研究テーマを選定し、研究を深め論文としてまとめる  
 第25回：研究発表  
 第26回：研究発表  
 第27回：研究発表  
 第28回：研究発表  
 第29回：研究発表  
 第30回：まとめ・保育・教職実践演習の総合所感

テキスト	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
参考書・ 参考資料等	適宜プリントを配布する。
学生に対する評価	受講態度、補完指導、グループ討論、実技指導、授業中に課する各種課題、研究論文の内容および発表等を踏まえ、保育者として最小限必要な資質、能力が身に ついているかを確認し総合評価を行う。

## 6. 保育の本質・目的に関する科目

授業科目名： 社会福祉		単位数： 2単位	担当教員：矢野 明宏
			担当形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	<p>(1) 保育士として課題を発見し、理解する力を身につけることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保護者とともに子育てを行う姿勢を基本に、適切な子ども支援体制を築くことができる。</li> <li>2) 適切に状況判断を行い、必要に応じて他者や他機関と連携することができる。</li> <li>3) 常に、子どもをめぐる社会的歴史的課題や時事問題に関心を持つことができる。</li> <li>4) 保育に関する自らの課題について、真摯に反省し、自己の向上に努めること。</li> <li>5) 地域の状況を理解し、子育てをとおして地域社会に貢献することができる。</li> </ol> <p>(2) 社会福祉の基礎を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保育を含む福祉サービスの原理を理解し、説明することができる。</li> <li>2) 保育士に必要な社会福祉サービスの体系・内容を理解し、説明することができる。</li> <li>3) 福祉サービス利用者（子ども）の権利を理解したうえで、福祉専門職の価値と倫理を修得し、自らの言葉で語ることができる。</li> </ol>		
授業の概要	保育の学びの基盤の一つである社会福祉について理解を深めることを目標とする。		
授業計画			
<p>第1回：社会福祉の理念と歴史の変遷</p> <p>第2回：子ども家庭支援と社会福祉</p> <p>第3回：社会福祉の制度と法体系</p> <p>第4回：社会福祉行財政と実施機関、社会福祉施設等</p> <p>第5回：社会福祉の専門職</p> <p>第6回：社会保障および関連制度の概要</p> <p>第7回：相談援助①</p> <p>第8回：相談援助②</p> <p>第9回：相談援助③</p> <p>第10回：社会福祉における利用者保護にかかわる仕組み</p> <p>第11回：少子高齢化社会における子育て支援</p> <p>第12回：共生社会と障害者施策</p> <p>第13回：在宅福祉・地域福祉の推進</p> <p>第14回：諸外国の社会福祉の動向</p> <p>第15回：全体まとめ</p> <p>定期試験（筆記）</p>			
テキスト	著者名：公益社団法人児童育成協会監修 松原康雄、坪 洋一、金子 允『新・基本保育シリーズ4 社会福祉』中央法規出版 2021年		
参考書 参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。		
学生に対する評価	授業への参加態度（20%）、レポート提出（40%）、期末試験（40%）で評価する。		

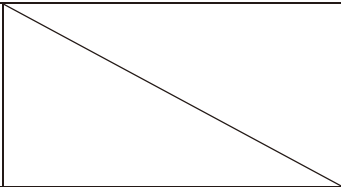
授業科目名： 子ども家庭支援論		単位数： 2単位	担当教員：新海 智子
			授業形態：単独 講義
科 目	保育の本質・目的に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 家庭、家族とは何か 家族の機能について理解する。 1) 家庭、家族とは何かについて学ぶ。 2) 家族支援の必要性について学ぶ。 (2) 子育て家庭を支える地域の社会資源や具体的な子育て支援の取り組みに関する知識を身につける。 1) 子育てを取り巻く環境としての家庭、地域社会の今日の状況や子育て上の問題について理解する。 2) 子育て家庭を支える資源や取り組みについて学ぶ。 (3) 社会的状況の変化をふまえ、求められる子育て支援のあり方について考える力を養う。 1) 保育者による家庭支援、子育て支援施策、次世代生育支援施策の推進について理解する。 2) 特別な配慮を要する家庭についての知識を得る。		
授業の概要	家庭、家族の概念や機能、現代の子育て家庭の状況など、家庭支援が必要となっている背景を学ぶ。その上で、家庭支援の社会資源や子育て支援の具体的な取り組みについて学び、具体的な家庭支援の理念や方法について学習する。		
授業計画			
第1回：家庭支援とは 第2回：家族・家庭とは 第3回：家族の発達 第4回：家庭支援の必要性 第5回：現代の家庭における人間関係 第6回：家庭生活を取り巻く社会的状況 第7回：特別の支援を必要とする家族とその支援① 第8回：特別の支援を必要とする家族とその支援② 第9回：特別の支援を必要とする家族とその支援③ 第10回：子育て家庭を支える社会資源 第11回：子育て支援政策、次世代育成支援施策の推進 第12回：保育者が行う家庭支援の原理 第13回：保育所入所による家庭支援 第14回：地域の子育て家庭への支援 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト	実践 子ども家庭支援論（ななみ書房）		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	授業態度（10%）、課題（40%）、試験（50%）から総合的に評価する。		

7. 保育の対象の理解に関する科目

授業科目名： 子どもの理解と援助		単位数： 1 単位	担当教員：早川 貴子
		授業形態：単独 演習	
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	「子どもを理解する」こととはどのようなことなのか、子どもが見せてくれている姿勢、行為、育ちをどのように読み取り、理解するかについて学ぶ。それらの理解が保育者の子どもへの援助にどのような関係してくるのかについて考察を深める。		
授業の概要	(1) 子ども理解の意義と原理を学ぶ 1) 保育の始まりとしての子ども理解について学ぶ 2) 子どもを取り巻く環境について理解する。 3) 子ども理解における発達の観点を学ぶ 4) 子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインドについて理解する。 (2) 子ども理解と援助の方法を学ぶ。 1) 保育における観察と記録について理解する。 2) 記録に基づく保育カウンセリングについて学習する 3) 保育者理解と援助について理解する。		
授業計画			
第 1 回：保育における「子ども理解」とは① 第 2 回：保育における「子ども理解」とは② 第 3 回：子どもを取り巻く環境の理解① 第 4 回：子どもを取り巻く環境の理解② 第 5 回：子ども理解における発達の観点 第 6 回：保育者における観察と記録① 第 7 回：保育者における観察と記録② 第 8 回：保育者の姿勢とカウンセリングマインド① 第 9 回：保育者の姿勢とカウンセリングマインド② 第 10 回：保育者の姿勢とカウンセリングマインド③ 第 11 回：記録に基づく保育カンファレス 第 12 回：特別なニーズの理解と援助 第 13 回：保護者理解と援助 第 14 回：子ども理解を深める保育とは 第 15 回：まとめ 定期試験			
テキスト	新しい保育講座③子ども理解と援助 ミネルヴァ書房		
参考書 参考資料等	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
学生に対する評価	受講態度・課題提出 (30%)、試験 (70%)、から総合的に評価する。		

授業科目名： 子どもの保健		単位数： 2単位	担当教員：皆川 まり
			授業形態：単独 講義
科 目	保育の対象の理解に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	(1) 子どもの心身の健康と保健の意義を理解する。 (2) 子どもの身体発育・発達を理解する。 (3) 子どもの疾病と予防法、適切な対応について理解する。		
授業の概要	子どもの健康と保健について理解する。子どもの発育・発達について理解する。子どもに多い疾患と事故について理解し、その対処方法について学ぶ。		
授業計画			
第1回：子どもの健康と保健の意義 第2回：子どもの発育と発達 第3回：子どもの発育と発達 第4回：子どもの発育と発達 第5回：子どもの発育と発達 第6回：子どもの発育と発達 第7回：健康と病気・異常 第8回：健康と病気・異常 第9回：健康と病気・異常 第10回：事故と応急処置 第11回：事故と応急処置 第12回：感染症と予防接種 第13回：乳幼児期の病気 第14回：乳幼児期の病気 第15回：乳幼児期の病気 定期試験			
テキスト	子どもの保健 第7版 追補（最新版）診断と治療社		
参考書 参考資料等			
学生に対する評価	定期試験（50%）、授業態度（50%）からの総合的に評価する。		

## 8. 保育の内容・方法に関する科目

授業科目名： 社会的養護Ⅱ		単位数： 1 単位	担当教員名： 矢野 明宏
			担当形態： 単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標及びテーマ：社会的養護を必要とする子どもやその背景について学びを深め、施設養護及び家庭養護の実際について理解する。社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解しながら、知識と技能についての習得を目指す。			
授業の概要：社会的養護施設における養護の基本的理念を理解し、施設での保育士として求められる具体的な援助方法、内容について演習を通して検討し理解を深める。			
授業計画 第1回：子どもの権利擁護 第2回：社会的養護における子どもの理解 第3回：社会的養護の内容①（日常生活支援） 第4回：社会的養護の内容②（心理的支援） 第5回：社会的養護の内容③（自立支援） 第6回：施設養護の生活特性① 第7回：施設養護の生活特性② 第8回：家庭用語の生活特性 第9回：アセスメントと個別支援計画 第10回：記録と自己評価 第11回：社会的養護における保育の専門性 第12回：社会的養護におけるソーシャルワーク・相談援助① 第13回：社会的養護におけるソーシャルワーク・相談援助② 第14回：社会的養護における家庭支援 第15回：全体まとめ（今後の社会的養護の課題と展望） 定期試験			
テキスト	著者名：公益社団法人児童育成協会監修 相澤仁 林浩康「新・基本保育シリーズ18 社会的養護Ⅱ」中央法規出版 2021年		
参考書・参考資料等	必要に応じて、適宜紹介する。		
学生に対する評価	授業への参加態度（20%）・課題（またはレポート）発表（40%）・期末試験（40%）から総合的に評価する。		



授業科目名： 子育て支援		単位数： 1単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育の内容・方法に関する科目		
授業の到達目標 及びテーマ	多様な保育ニーズを踏まえ、子育て支援の制度や体制について理解し、地域に根差した子育て支援のあり方や具体的な実践方法を身に付ける。		
授業の概要	地域に開かれた子育て支援の実際を知り、子育て支援の活動について理解する。子育て支援の制度、体制の学習を踏まえ、子育て支援の実践例を見ながら具体的にイメージできるように理解を深める。		
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション 家庭を取り巻く現代社会の状況</p> <p>第2回：子育て支援体制の整備</p> <p>第3回：保育現場における相談援助</p> <p>第4回：特別なニーズのある子どもの特性理解と子育て支援</p> <p>第5回：基本的な生活習慣の自立に向けた子育て支援</p> <p>第6回：これからの子育てにおける食の問題</p> <p>第7回：子育て支援の実際を知る</p> <p>第8回：地域の子育て支援センター的役割</p> <p>第9回：子育て支援と世代間交流</p> <p>第10回：地域への子育て支援のあり方</p> <p>第11回：プログラム型子育て支援</p> <p>第12回：ノンプログラム型子育て支援</p> <p>第13回：地域とつながる子育て支援</p> <p>第14回：諸外国における子育て支援の現状</p> <p>第15回：子育て支援における地域の役割と今後の課題</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	著者：五十嵐 淳子・船田 鈴子「保育の学びを深める子育て支援の実際」大学図書出版		
参考書 参考資料等	適宜プリント配布		
学生に対する評価	定期試験（40%）、発表（40%）、課題提出（10%）、授業態度（10%）		

## 9. 保育実習

授業科目名： 保育実習Ⅰ		単位数： 4単位	担当教員： 石井 久美子
			授業形態：複数 実習
科目	保育実習		
	〈保育実習〉		担当：石井 久美子
授業の概要	実習生としての必要な基本的な学びを踏まえて、実習において理論と実践の統合を図れるようにする。また、乳幼児にかかわる上で必要な適切かつ具体的な支援方法・態度について学ぶ。		
授業の到達目標 及びテーマ	保育実習についての基本的な理論を踏まえ、保育士として必要な資質、知識や技術を習得することを目的とする。また、保育士としての職務内容・専門性について理解を深める。		
授業計画			
<p>保育実習Ⅰの目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①保育の一日の流れを理解し、子どもの名前を覚え参加する。</li> <li>②事前に学習した子どもの発達を参考にして、実際に子どもの様子を見て、理解を深める。</li> <li>③保育士と子どもの関係を学ぶ。</li> <li>④子どもの活動に対して、様々な環境の中で具体的にどんな援助をしているのかを（食事や排泄・遊び・昼寝・着脱・清潔など）学ぶ。</li> <li>⑤誉めるとき、叱るとき、集中させるとき、子どもの要求に対するとき等、具体的にどのような態度、表情、言葉を掛けて援助しているかを学ぶ。</li> <li>⑥健康・安全・疾病予防への配慮について理解する。</li> </ol> <p>2月に保育実習Ⅰ（観察・参加：12日間、90時間以上）を指定された園で行う。</p> <p>※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。</p>			

〈施設実習〉		担当：新海 智子
授業の概要	実習は保育所以外の児童福祉施設（児童養護施設、乳児院、母子生活支援施設、情緒障害児短期治療施設、障害児入所施設、児童自立支援施設等）で行う。	
授業の到達目標 及びテーマ	保育所とは違う種別の児童福祉施設において実習し、各々の施設の機能や社会的な役割、また施設保育士としての役割を理解する。	
授業計画		
<p>施設実習の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①実習先の施設の役割・機能について理解する。</li> <li>②一緒に行動したり業務を手伝ったりして具体的にその施設の児童へのかかわり方について学ぶ。</li> <li>③それぞれの施設の児童について正しく理解する。</li> <li>④児童福祉施設における保育士の役割・職務内容を理解する。</li> <li>⑤職種間連携やチームプレーが児童への育ちへどのようにつながっているのか理解する。</li> </ol> <p>3月～7月に保育所とは種別の違う施設において（観察、参加及び指導実習：12日間、90時間以上）、指定された園で行う。</p> <p>※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。</p>		
テキスト	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい）	
参考書・ 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示） 適宜プリント配布	
学生に対する評価	受講態度・提出物・試験（40%）、実習日誌の記録・実習園の評価（60%）から総合的に評価	

授業科目名： 保育実習Ⅱ		単位数： 2単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 実習
科 目	専門教育科目（保育実習）		
授業の到達目標 及びテーマ	乳幼児の実際にかかわりながら、理論と実践の統合を深めていく。子どもの姿や実態、保育者の支援方法などをよく観察し、実際に保育指導計画を立案して責任実習を行う。保育実習Ⅱは原則として保育実習Ⅰとは異なる園で行う。		
授業の概要	保育実習Ⅰでの保育実践経験を踏まえて、更なる知識や技術の向上の努力に努め、保育者に必要な資質や能力の向上を目指す。また、職員間や保護者・地域との連携、子育て支援、安全管理などについて実践的に学び、保育所の多様な機能や役割についての理解を深める。		
授業計画			
<p>保育実習Ⅱの目的</p> <p>①子どもの名前を覚え、積極的に遊びの仲間に入り、ありのままの子どもの姿を知り、子どもを理解する。</p> <p>②健康、安全のための環境、整備を子どもの具体的な活動（食事、排泄、昼寝、着脱、清潔、遊び）との関連で学ぶ。</p> <p>③基本的な生活習慣や社会的習慣の指導について、各々の場面に合った指導の仕方を学び、保育士として必要な資質、能力を養う。</p> <p>④園の指導計画（年間計画・月案）などを把握し、やってみたい内容を考えたうえで担当者と相談し、ねらい、場面の構成、留意点を考えて指導案を作成し、実施・評価を受ける（事前に担当者の助言、指導を必ず受ける）。</p> <p>⑤施設の許可があれば調理室の実習を行う。</p> <p>⑥家庭と地域の実態にふれ、支援や連携のあり方について学ぶ。</p> <p>9月に保育実習Ⅱ（観察・参加・部分・責任：12日間、90時間以上）を指定された園で行う。</p> <p>※保育実習指導Ⅰ、保育実習指導Ⅱの補足に充てる場合がある。</p>			
テキスト	保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 実習まるわかりガイドブック（大学図書出版） 実践力がつく保育実習（大学図書出版） 福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい）		
参考書・ 参考資料等	厚生労働省「保育所保育指針」（平成29年度告示） 内閣府・文部科学省・厚生労働省 「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成29年度告示） 適宜プリント配布		
学生に対する評価	受講態度・提出物・試験（40%）、実習日誌の記録・実習園の評価（60%） から総合的に評価		

授業科目名： 保育実習指導Ⅱ		単位数： 1 単位	担当教員：石井 久美子
			授業形態：単独 演習
科 目	保育実習		
授業の到達目標 及びテーマ	実習事前指導においては保育実習Ⅰでの反省を踏まえ、保育実習Ⅱでの学びがより深められるよう、指導計画の立案や実践力を高めるための知識や技術の向上に重点を置いて行う。また、実習事後指導では実習を振り返り、自己課題を明確にすること、さらに保育観を確立していくための学びを行っていく。		
授業の概要	既学習を踏まえ保育実践力を培い、保育士の専門性や職業倫理について理解すること、保育について総合的に学ぶことを目的とする。また、事前事後指導を通して、自己課題を明確にし保育に対する認識を深める。		
授業計画			
<p>第1回：授業ガイダンス、保育実習Ⅱの意義と目的</p> <p>第2回：保育所の多様な機能と役割／保育所における子育て支援と地域との連携</p> <p>第3回：保育所・幼稚園・小学校との連携</p> <p>第4回：個別・集団に応じた適切なかかわり／保育者同士の連携</p> <p>第5回：保育の実践技術を生かした保育実践</p> <p>第6回：保育指導計画の立案・作成①（責任実習・・・主活動）</p> <p>第7回：保育指導計画の立案・作成②（責任実習・・・全 日）</p> <p>第8回：保育の観察、記録、自己評価</p> <p>第9回：保育士の専門性と職業倫理</p> <p>第10回：事後指導における実習の総括と自己評価①</p> <p>第11回：事後指導における実習の総括と自己評価②</p> <p>第12回：事後指導における実習の総括と自己評価③</p> <p>第13回：事後指導における実習の総括と自己評価④</p> <p>第14回：課題の明確化と保育観の確立</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			
テキスト	<p>保育所保育指針</p> <p>幼保連携型認定こども園 教育・保育要領</p> <p>実習まるわかりガイドブック（大学図書出版）</p> <p>実践力がつく保育実習（大学図書出版）</p> <p>福祉施設実習ハンドブック（株式会社 みらい）</p>		
参考書・参考資料等	<p>厚生労働省「保育所保育指針」（平成 29 年度告示）</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省</p> <p>「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（平成 29 年度告示）</p> <p>適宜プリント配布</p>		
学生に対する評価	試験（60%）、受講態度・課題提出（40%）の総合評価		

2022（令和4年度）

## 幼児教育科 教育課程シラバス

発行所 学校法人 愛国学園  
愛国学園保育専門学校

〒133 - 8585

東京都江戸川区西小岩5 - 7 - 1

TEL 03 - 3658 - 4113

FAX 03 - 5668 - 3131